

# 2024年度第2四半期（中間期） 決算説明会資料

－ 2024年11月13日開催 －

京王電鉄株式会社

## I. 通期業績予想の修正について

## II. 中期経営計画の進捗状況

代表取締役社長 社長執行役員 都村 智史

## III. 2024年度第2四半期実績

## IV. 2024年度通期の業績予想

取締役 常務執行役員（財務・情報開示担当） 山岸 真也

## V. 参考資料

## 2024年度第2四半期実績

- 不動産販売業の売上増や鉄道事業の輸送人員増加に加え、2023年10月の鉄道旅客運賃の改定などにより、すべてのセグメントで対前年増収となり、営業収益は2,141億円
- すべてのセグメントで対前年増益となり、営業利益は317億円、親会社株主に帰属する中間純利益は251億円
- 対計画では、営業収益・営業利益ともにすべてのセグメントで想定を上回り、80億円の増収、68億円の増益

## 2024年度通期の業績見通し

- 不動産販売業において販売戸数が増加する見込みとなったことに加え、ホテル業における客室単価上昇による売上高の増加などにより、営業収益は4,700億円（対計画+160億円）、営業利益は550億円（対計画+90億円）、親会社株主に帰属する当期純利益は410億円（対計画+68億円）を見込む
- 配当予想の見直しを行い、年間配当金は1株につき100.0円を予定（対計画+30.0円）
- 150億円を上限に自己株式の市場買付けを実施予定

# I. 通期業績予想の修正について

# 1. 中計最終年度における取り組み

- 「利益水準の回復」は、2023年度に前倒しで達成
- 一方で、「2030年代を見据えた事業変革」については、2024年度も引き続き注力していく
- 資本効率向上や株主還元強化を意識した次期中期経営計画の策定を進める

## 2022～2024年度 現中期経営計画

<b>RE START</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新しいライフスタイルを牽引する存在として、生活圏内の回遊性向上を図る</li> <li>豊かで魅力的な「まちづくり」への主体的な関与</li> <li>新しい移動需要の創出</li> </ul>
<b>RE DEVELOPMENT</b> ＜まちづくりへの注力＞	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活圏内の回遊性向上により、新たな移動需要を創出</li> <li>沿線のエリアマネジメント</li> <li>駅を核とした拠点開発</li> </ul>
<b>RE STRUCTURING</b> ＜事業構造改革の推進＞	<ul style="list-style-type: none"> <li>DX推進によるコスト構造改革やグループ横断的なデータ活用</li> <li>不採算領域の見極め、選択と集中</li> <li>人流やインバウンドに依存しない事業構造構築</li> </ul>
<b>RE INFORCE</b> ＜稼ぐ力の強化＞	<ul style="list-style-type: none"> <li>分譲マンション事業をはじめとする不動産販売業の強化</li> <li>出口戦略を見据えた新規資産の取得と売却</li> <li>物流事業進出やB to B領域の拡大</li> </ul>
<b>鉄道事業「日本一安全でサービスの良い鉄道」</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>より高度な安全・安心の追求</li> <li>お客様ニーズを先取りしたサービスの提供</li> <li>さらなる社会貢献を通じた地域・社会との共生</li> <li>未来を見据えた堅石な事業運営体制の構築</li> </ul>
<b>強固な経営基盤</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門性の高い人材の育成・採用と多様性の確保</li> <li>環境への取り組み</li> <li>大規模投資期のキャッシュアウトに耐えうる財務基盤づくり</li> </ul>

2025年度～

2030年代  
大規模投資期

**目指す方向性  
(京王グループ理念)**

- ・ 住んでもらえる、選んでもらえる沿線
- ・ 幸せな暮らしの実現

**中長期的な課題**  
大規模投資期の資産増加による財務や資産効率の低下  
〔資本コストを意識した経営〕

まちづくりへの注力

鉄道事業  
「日本一安全でサービスの良い鉄道」



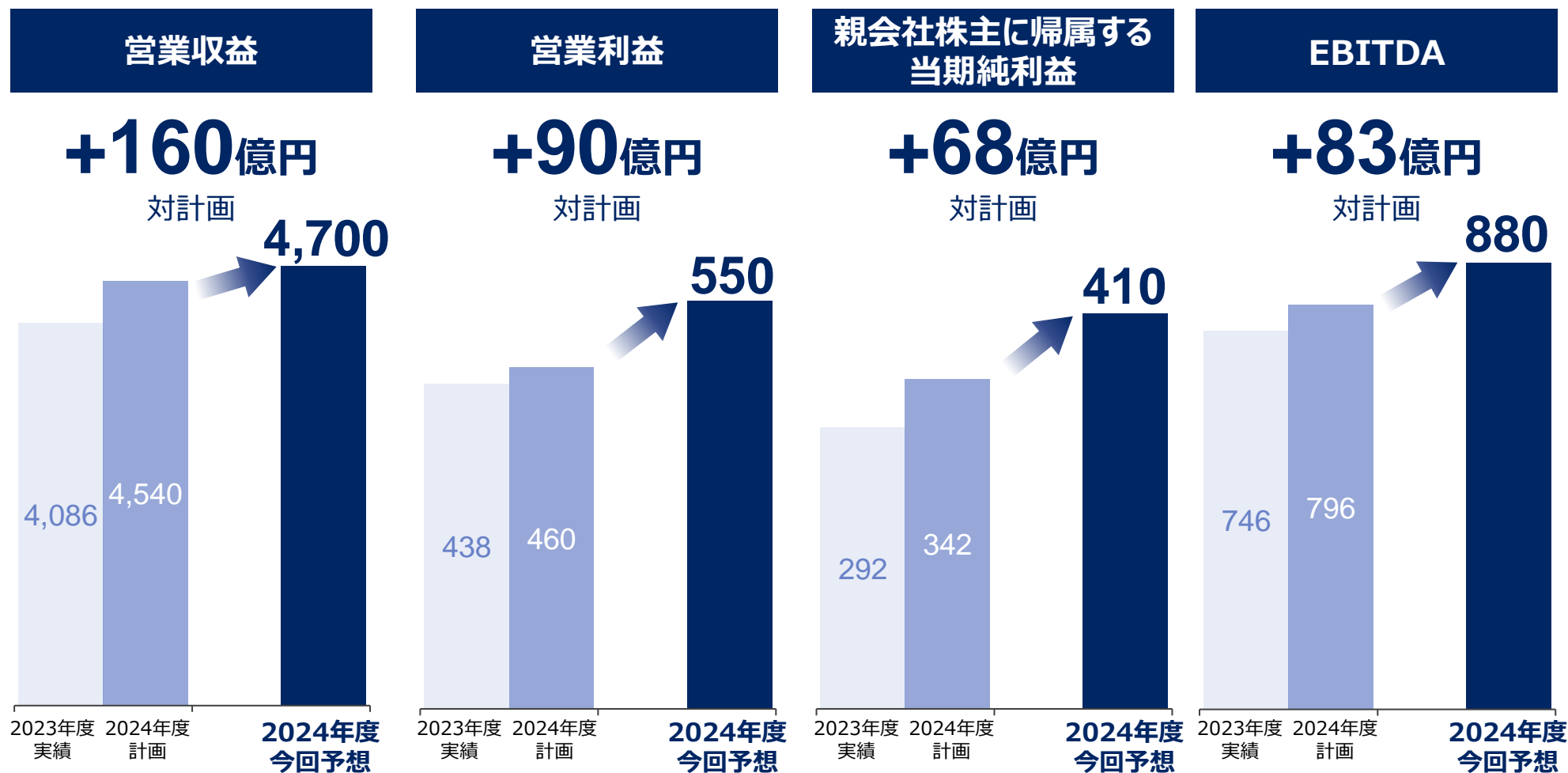
強固な経営基盤  
人財・財務・ガバナンス

## 次期中期経営計画の検討ポイント

- ・ **不動産販売業の拡大** 利益の成長ドライバーとして事業展開を加速
- ・ **鉄道事業の生産性向上** DXによる業務省力化・ワンマン運転の検討
- ・ **資産効率や資本効率の向上** ROA・ROEなど数値目標の明確化
- ・ **株主還元等の強化** 配当水準の見直し
- ・ **サステナビリティ経営の推進** カーボンニュートラルの実現に向けた取り組み  
人財確保、専門人財の育成、DE&Iの推進

## 2. 2024年度通期の業績予想

- 不動産販売業の売上増に加え、ホテル業における訪日外国人旅行客を中心とした宿泊需要の好調継続を見込み、対計画で160億円の増収、90億円の増益を見込む



### 3. 株主還元強化

- 営業キャッシュフローの増加を人的投資に充当するとともに株主還元強化を実施
- 次期中計においてもキャッシュアロケーションに基づき、継続的な株主還元強化を実施予定

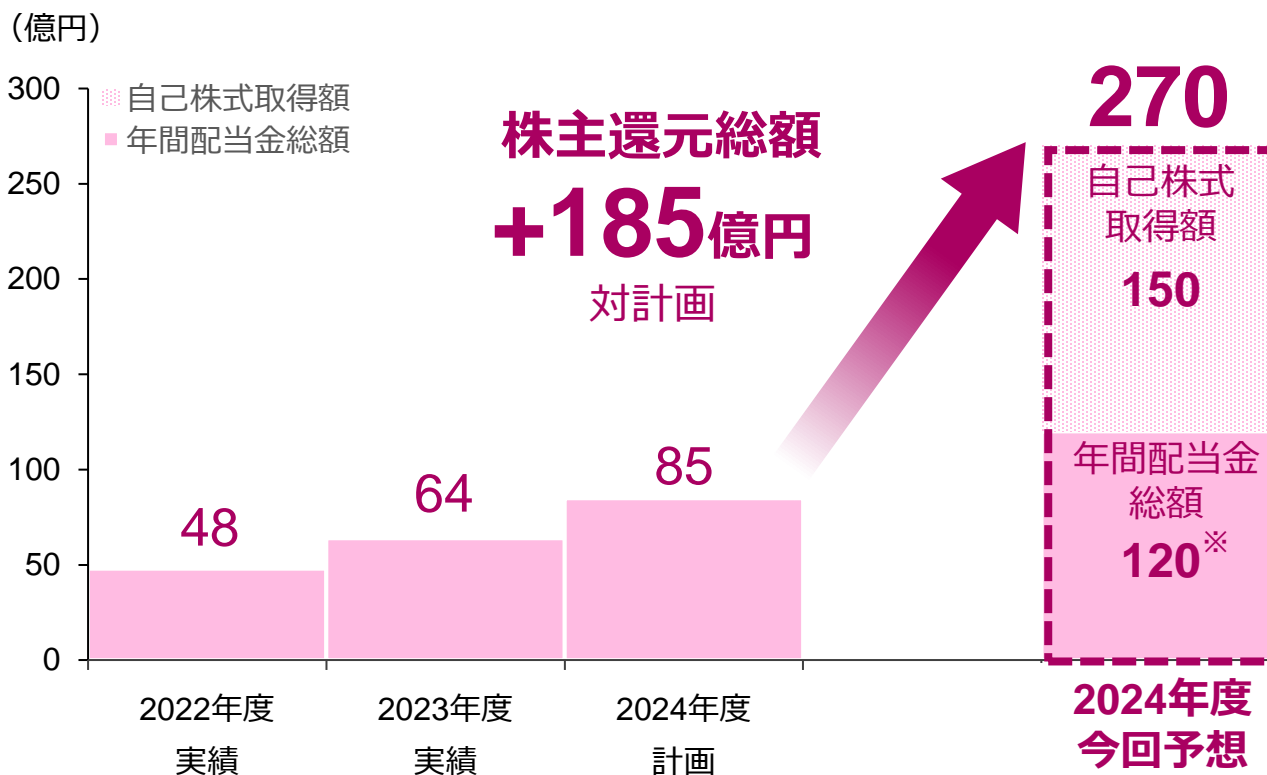
#### 2024年度のキャッシュアロケーションのイメージ



成長投資などとのバランスを考慮しながらキャッシュフローの最適配分を行い、株主還元強化を継続的に実施していく

### 3. 株主還元強化

- 年間配当金を1株につき100円へ増配、配当利回りは3%程度となる予定（2024年9月末時点の株価で算出）
- 150億円を上限に自己株式の市場買付け（既存保有分も含めて消却を実施予定）
- 2024年度の総還元額は270億円、現中計3カ年累計の総還元性向は46%程度となる予定



今回取得分の**全株を消却**

既存保有株式のうち  
**500万株程度を消却**予定

既存保有株式の一部は役員  
株式報酬や将来的なM&Aの  
ため保有を継続

一株あたり年間配当金	40円	52.5円	70円	100円
総還元性向	37.2%	21.9%	25.0%	65.8%
現中計3カ年累計 <b>46%程度</b>				

※自己株式取得を考慮した想定金額



## Ⅱ. 中期経営計画の進捗状況

# 1. 中期3カ年経営計画（2022～2024年度）

## RE START

- 新しいライフスタイルを牽引する存在として、生活圏内の回遊性向上を図る
- 豊かで魅力的な「まちづくり」への主体的な関与
- 新しい移動需要の創出

## RE DEVELOPMENT ＜まちづくりへの注力＞

- 生活圏内の回遊性向上により、新たな移動需要を創出
- 沿線のエリアマネジメント
- 駅を核とした拠点開発

## RE STRUCTURING ＜事業構造改革の推進＞

- DX推進によるコスト構造改革やグループ横断的なデータ活用
- 不採算領域の見極め、選択と集中
- 人流やインバウンドに依存しない事業構造構築

## RE INFORCE ＜稼ぐ力の強化＞

- 分譲マンション事業をはじめとする不動産販売業の強化
- 出口戦略を見据えた新規資産の取得と売却
- 物流事業進出やB to B領域の拡大

### 鉄道事業「日本一安全でサービスの良い鉄道」

- より高度な安全・安心の追求
- お客様ニーズを先取りしたサービスの提供
- さらなる社会貢献を通じた地域・社会との共生
- 未来を見据えた盤石な事業運営体制の構築

### 強固な経営基盤

- 専門性の高い人材の育成・採用と多様性の確保
- 環境への取り組み
- 大規模投資期のキャッシュアウトに耐えうる財務基盤づくり

2030年代に本格化する大規模投資期にむけて「稼ぐ力」を取り戻すための重要な期間

# 1. 中期3カ年経営計画 (2022~2024年度)

## 重点施策の実施状況

重点施策	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度以降
<b>鉄道事業の安全性 サービス向上</b>	座席指定列車5000系 1編成増備  GISプラットフォーム運用開始 (保守業務の効率化)	運賃改定 鉄道乗車ポイントサービス開始  改札機のQR認証・タッチ決済対応 リアルタイム伝送機能付き防犯カメラ設置(全車両・全駅)	5000系 1編成増備  5000系 2編成増備	自動運転(ワンマン運転) 実証試験開始  新型通勤車両2000系導入 ホームドア全駅整備 井の頭線(2020年代中頃) 京王線(2030年代前半)
	<b>笹塚以西連続立体交差事業 (～2030年度末)</b>			
<b>RE DEVELOPMENT</b> <まちづくりへの注力>	沿線拠点(新宿・世田谷・調布・聖蹟桜ヶ丘・橋本)のエリア価値向上に向けたまちづくりの推進			
	<b>新宿駅西南口地区開発計画 (南街区 2028年度竣工、北街区 2040年代竣工)</b> 外部企業との共創によるオープンイノベーション実現			
<b>RE STRUCTURING</b> <事業構造改革の推進>	京王プレッソイン東銀座 閉館 京王観光 個人旅行カウンター店舗縮小	京王プラザホテル新宿 最上階ラウンジオープン 客室改装(84室)実施 セルフチェックイン導入	京王プラザホテル新宿 客室改装(約100室)実施	バスターミナル東京八重洲 全体開業(2028年度)
	京王プラザホテル多摩 閉館 (京王多摩センタービル)	京王 NEOBANK サービス提供開始	商業施設運営事業の再編 (京王SCクリエイション設立)	京王多摩センタービル建替え (商業施設・分譲マンション)
<b>RE INFORCE</b> <稼ぐ力の強化>	プリアタワー聖蹟桜ヶ丘 ブルーミングレジデンス竣工	NB建設子会社化 (現 京王建設横浜)	サンウッド浜田山竣工	プラウド京王聖蹟桜ヶ丘竣工 (分譲マンション)
	フロントティア御成門取得	サンウッド子会社化 京王多摩境駅前ビル竣工	不動産ファンド組成	

## 2. 中期経営計画の取り組み状況

### ホームドアおよび自動運転設備の整備工事（鉄道事業の安全性・サービス向上）

- 鉄道輸送の安全およびサービスレベルを確保しながら持続可能な鉄道事業を目指す
- ホームドア整備について、井の頭線は2020年代中頃、京王線は2030年代前半の完了を目指す
- 2025年春からワンマン運転の実証試験を実施し、2020年代に井の頭線から開始する予定

	目的・効果	当社事業費
ホームドア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お客様の転落等の事故防止による安全性確保</li> <li>・輸送障害の削減および列車運行の安定性確保</li> </ul>	741億円
自動運転	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワンマン運転実施による要員のスリム化、コスト構造の改善</li> <li>・持続可能な鉄道事業に向けたサービスレベルの確保</li> </ul>	210億円

### 自動化レベル

GoA※（自動化レベル）	乗務員	当社の方針
GoA0 目視運転	2名	現在の 京王線・井の頭線
GoA1 非自動運転		
<b>GoA2 半自動運転</b>	<b>1名</b>	<b>今回目指す 自動化レベル</b>

### 実証試験の実施路線（井の頭線）



※GoA（Grades of Automation）：UITP（国際公共交通連合）による鉄道の自動運転レベルを定める基準

## 2. 中期経営計画の取り組み状況

### まちづくりへの注力

RE DEVELOPMENT

#### ■京王多摩川駅周辺地区土地区画整理事業

- 2024年7月より基盤整備工事に着手
- 広場や歩行者空間を整備するほか、住宅をはじめとする多用途の建物を開発予定

	B棟	C棟
開業予定	2027年7月頃	2027年12月頃
構造規模	RC造 地上10階	RC造 地上12階
用途	3~10F 賃貸住宅(214戸) 3F 調布市医療ステーション 2F 調布市総合福祉センター 1F 保育園・店舗・住宅	分譲住宅(264戸)

※A棟の詳細は未定



▲街区全体イメージ



▲街区内イメージ

### 事業構造改革の推進

RE STRUCTURING

#### ■オープンイノベーション

- 社員起点の事業共創プログラム「My turn」と、事業部起点の事業共創プログラム「JISOU」を開始
- イノベーションの担い手となる「共創人財」を生み出すことや、事業ポートフォリオの拡充を目指す



#### ■eスポーツ大会の開催・協賛

- 「Apex Legends」を用いたオンラインeスポーツ大会を開催
- 「ストリートファイター6」世界決勝大会への出場者を決める大会に特別協賛



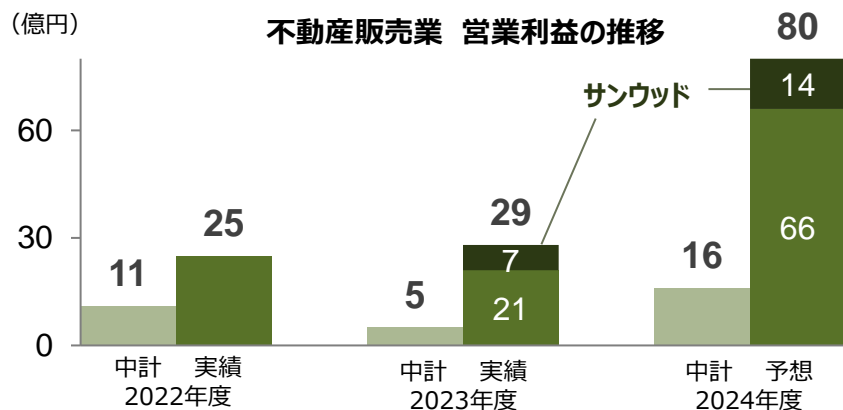
## 2. 中期経営計画の取り組み状況

### 稼ぐ力の強化

RE INFORCE

#### ■不動産販売業の強化

- バリューアップ投資や分譲マンション事業の推進、サンウッド連結子会社化など現中計の取り組みの成果が表れ始め、不動産販売業の営業利益は中期3カ年計画値を大きく上回る見込み



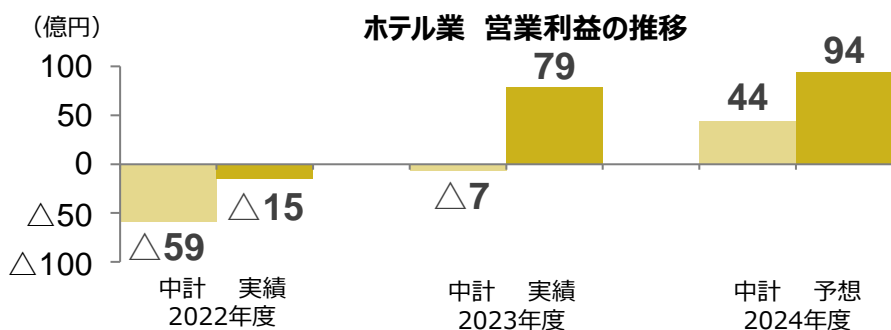
▲サンウッド浜田山  
(2024年7月竣工)



▲プライド京王聖蹟桜ヶ丘  
(2025年12月竣工予定)

#### ■ホテル業の強化

- インバウンド需要の確実な取り込みにより、ホテル業の営業利益は中期3カ年計画値を大きく上回る見込み



- 客室改装や市況の回復に合わせたレベニューマネジメントにより高単価販売を実現
- 京王プラザホテル（新宿）では、2024年4月に開業以来最高の平均客室単価を記録

#### 平均客室単価

	2024年度 第2四半期実績	2018年度 同期比
京王プラザホテル(新宿)	32,939円	+37.0%
京王プレッソイン(全店舗)	12,327円	+29.5%

## 2. 中期経営計画の取り組み状況

### サステナビリティに関する取り組み

#### ■ 再生可能エネルギー由来の電力への切り替え

- 「京王プラザホテル（新宿）」および「京王プレッソイン」を対象に、2024年8月より使用する電気の全てを実質再生可能エネルギー由来の電力に切り替え

物件名称	CO <sub>2</sub> 排出量 ※	客室数
京王プラザホテル(新宿)	7,700 t	1,453室
京王プレッソイン(全10店舗)	2,370 t	2,542室

※2023年度に各物件において使用した電気により排出されたCO<sub>2</sub>量（概算値）

#### ■ ESG指数の構成銘柄への選定

- ESG指数である「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」に今年度に初めて選定
- GPIFが採用する国内株式を対象としたESG指数のうち4つに選定された

2024 CONSTITUENT MSCI日本株  
ESGセレクト・リーダーズ指数



FTSE Blossom  
Japan Sector  
Relative Index



Morningstar 日本株式 ジェンダー・  
ダイバーシティ・ティルト指数  
(除REIT)

MSCI日本株ESGセレクト・リーダーズ指数※1 FTSE Blossom Japan  
Sector Relative Index※2

S&P/JPXカーボン・エフィシエント指数

※1 当社のMSCI指数への組み入れ、およびMSCIロゴ、商標、サービスマークまたは指数の名称は、MSCIまたはその関連会社による当社への後援、宣伝、販売促進ではありません。  
MSCI指数はMSCIの独占的な財産です。MSCIおよびMSCI指数の名称並びにロゴは、MSCIまたはその関連会社の商標またはサービスマークです。  
※2 <https://www.iaseg.com/en/fse-russell/indices/blossom-japan>

#### ■ マテリアリティKPIのうち、開示要請が高い指標の目標と実績

##### マテリアリティ | 活躍する人材

KPI・モニタリング指標（単体）	目標	実績（2023年度）
新卒女性採用比率	50%（総合職）【2024年度入社～】	36.8%（総合職）
女性管理職比率	30%【2030年度】	9.7%
男女別育児休業取得率	100%	女性 92.9% 男性 114.9%
年次有給休暇取得率	前年度水準以上	88.4%
トータルエンゲージメント	3.5点以上/5点満点 <b>モニタリング</b>	3.44
職場の心理的安全性スコア	3.5点以上/5点満点 <b>モニタリング</b>	3.47
安全・安心に関する教育・訓練	<b>モニタリング</b>	36.3時間/人
経営戦略実現に必要な専門人材の育成研修	<b>モニタリング</b>	19.4時間/人

##### マテリアリティ | 環境にやさしく

KPI	目標	実績（2023年度）
CO <sub>2</sub> 排出量（Scope1、2）	【2030年度】連結 2019年度比△30% 鉄道 2013年度比△46% 【2050年度】実質ゼロ	連結 2019年度比 △18.3% 鉄道 2013年度比 △34.4%

## Ⅲ. 2024年度第2四半期実績



# 1. 2024年度第2四半期実績

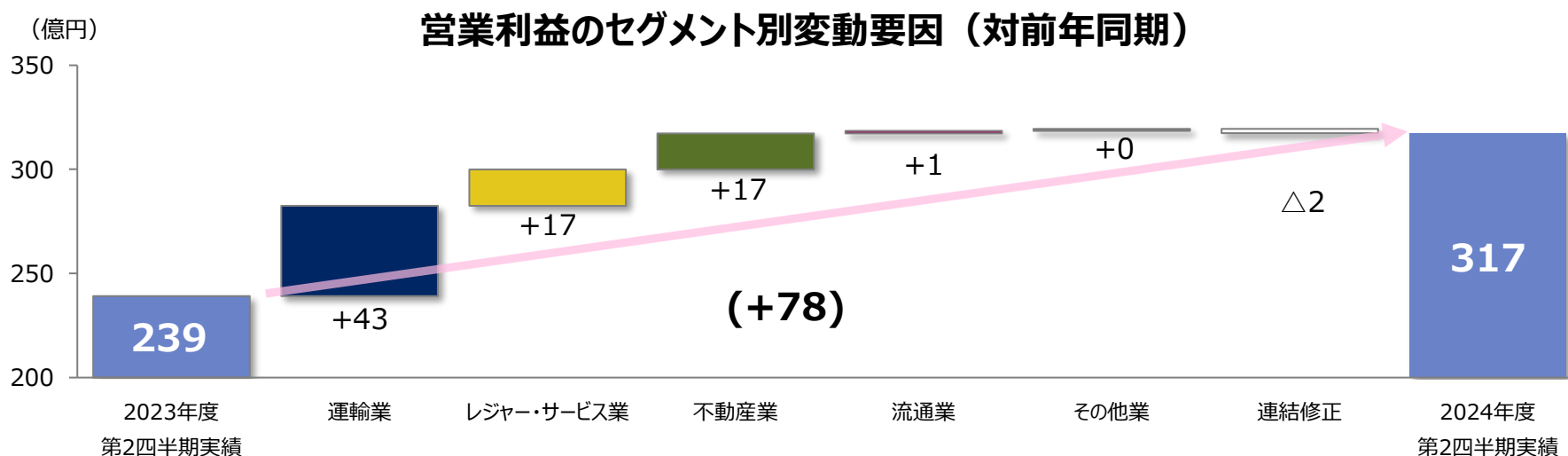
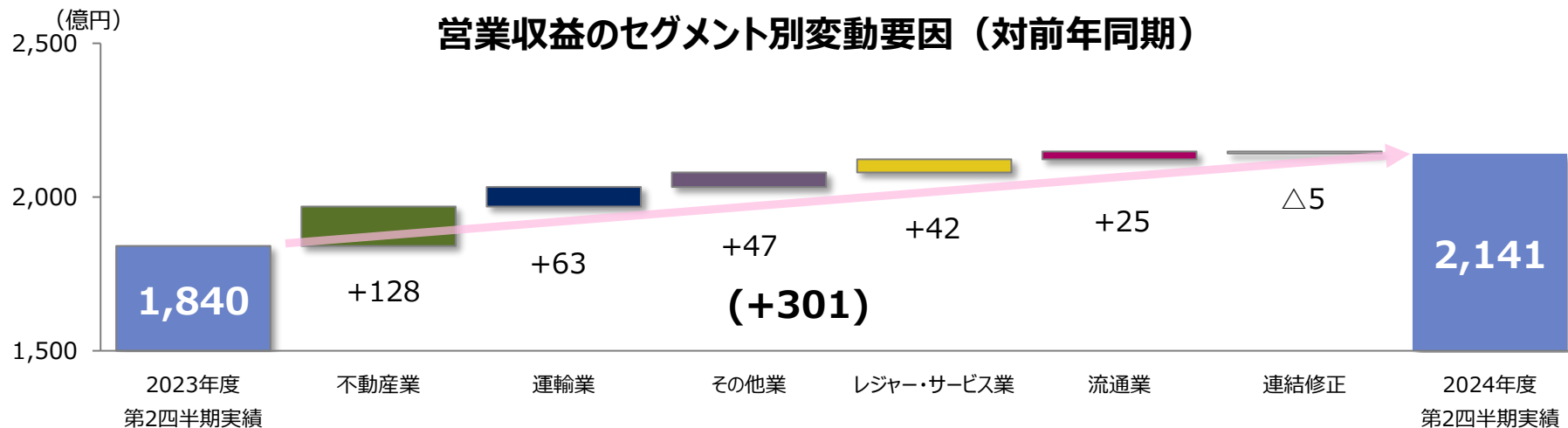
- 不動産販売業の売上増や鉄道事業の輸送人員増加に加え、2023年10月の鉄道旅客運賃の改定などにより、すべてのセグメントにおいて対前年で増収増益
- 対計画では、営業収益・営業利益ともにすべてのセグメントで想定を上回り、80億円の増収、68億円の増益

	2024年度 第1四半期実績 (4~6月)	2024年度 第2四半期実績 (7~9月)	2024年度 第2四半期累計 (4~9月)	前年増減	計画差異 (2024.5.10公表ベース)
営業収益	1,047億円	1,094億円	2,141億円	301億円	80億円
営業利益	168億円	148億円	317億円	78億円	68億円
経常利益	170億円	141億円	312億円	76億円	72億円
親会社株主に帰属 する四半期純利益	145億円	105億円	251億円	79億円	53億円
E B I T D A	247億円	228億円	476億円	92億円	63億円
減価償却費	78億円	79億円	157億円	14億円	△5億円

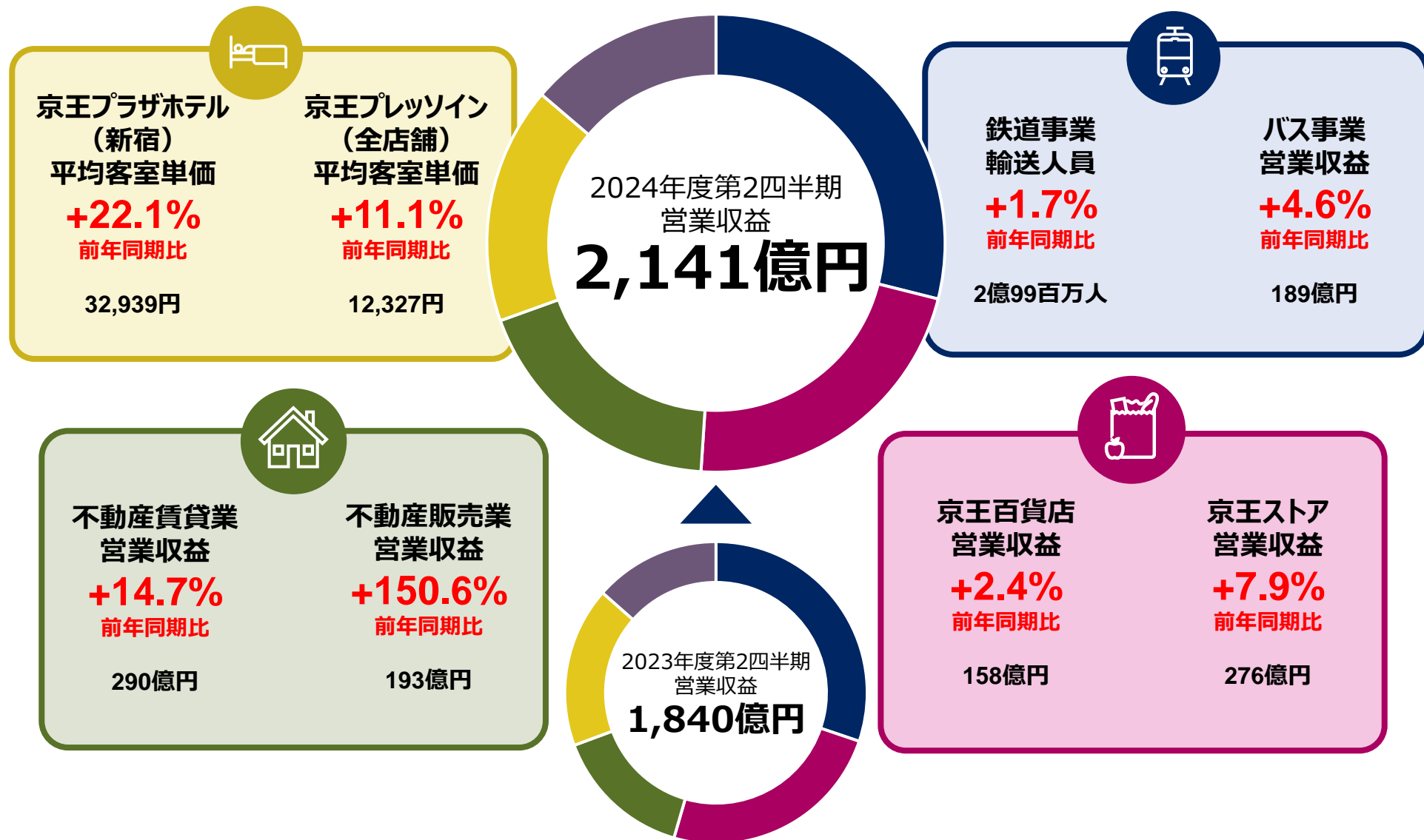
※EBITDAは、営業利益 + 減価償却費 + のれん償却額により算出している

## 2. 営業収益・営業利益の変動要因（対前年同期比較）

- 営業収益は、すべてのセグメントで増収となり、対前年で301億円の増収
- 営業利益は、すべてのセグメントで増益となり、対前年で78億円の増益



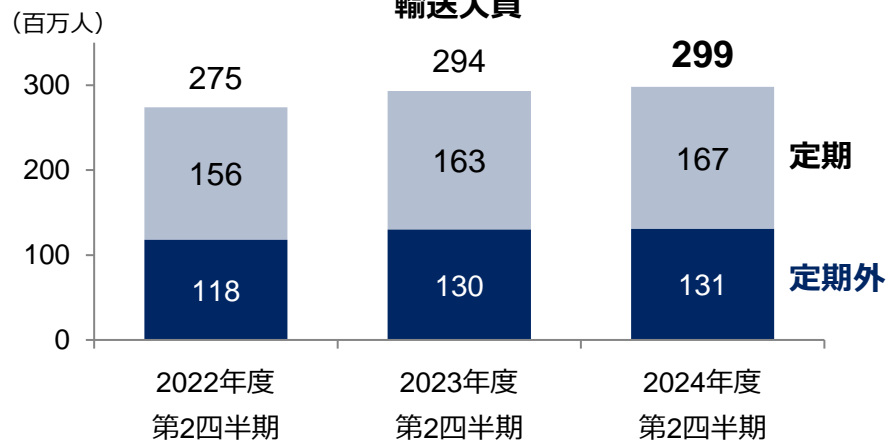
### 3. 主な事業の状況



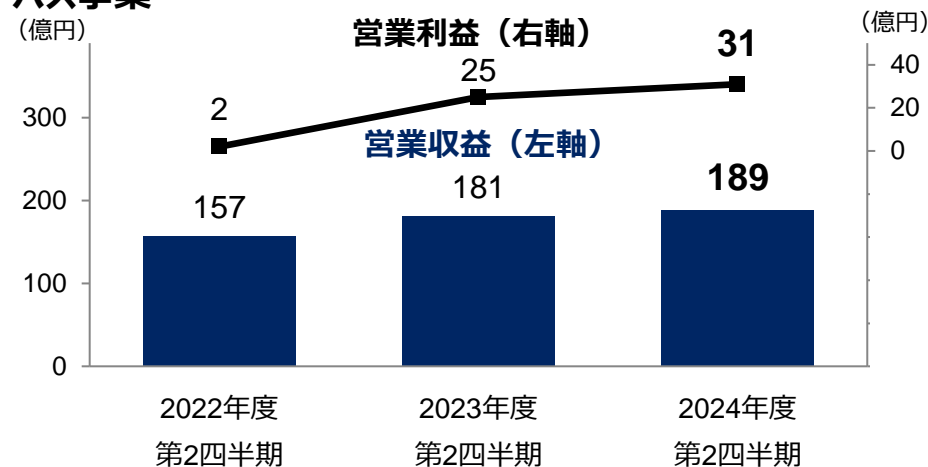
# 3. 主な事業の状況

- 鉄道事業では、輸送人員が定期・定期外ともに前年同期を上回る
- バス事業では、路線バスや高速バスが好調に推移し、対前年で増収増益
- 不動産販売業では、サンウッド連結子会社化や高価格帯リノベーション物件の売上増などにより対前年で増収増益

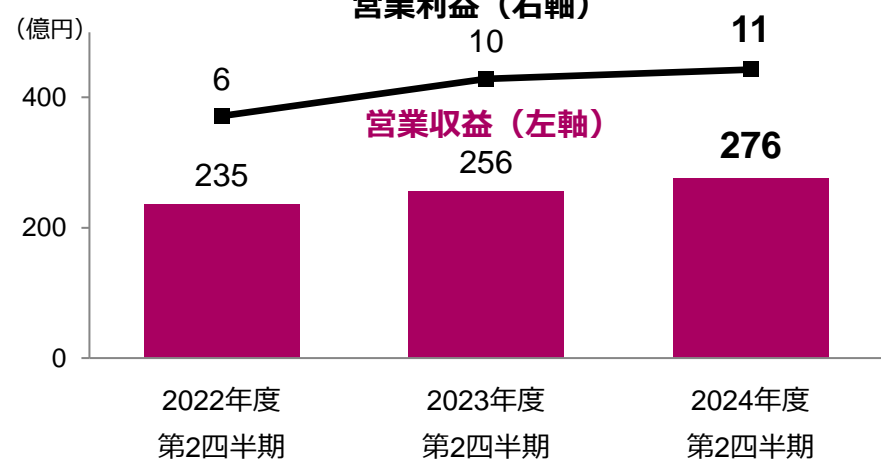
## 京王電鉄（鉄道）



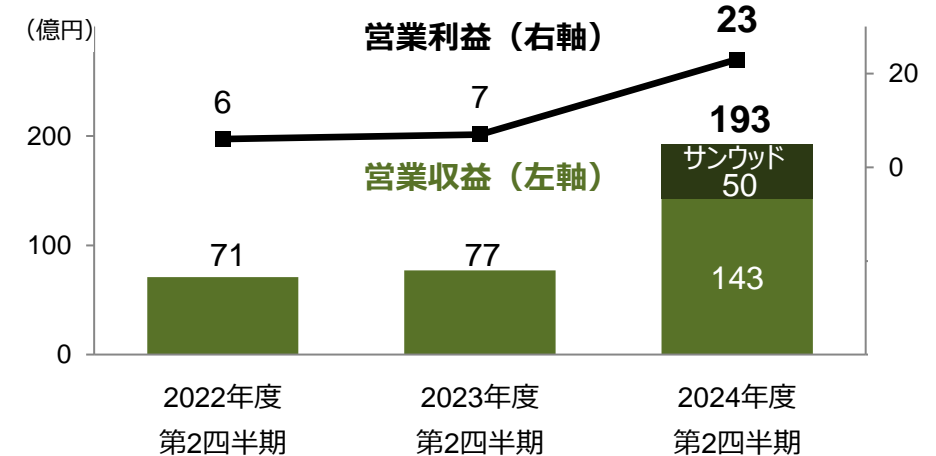
## バス事業



## 京王ストア



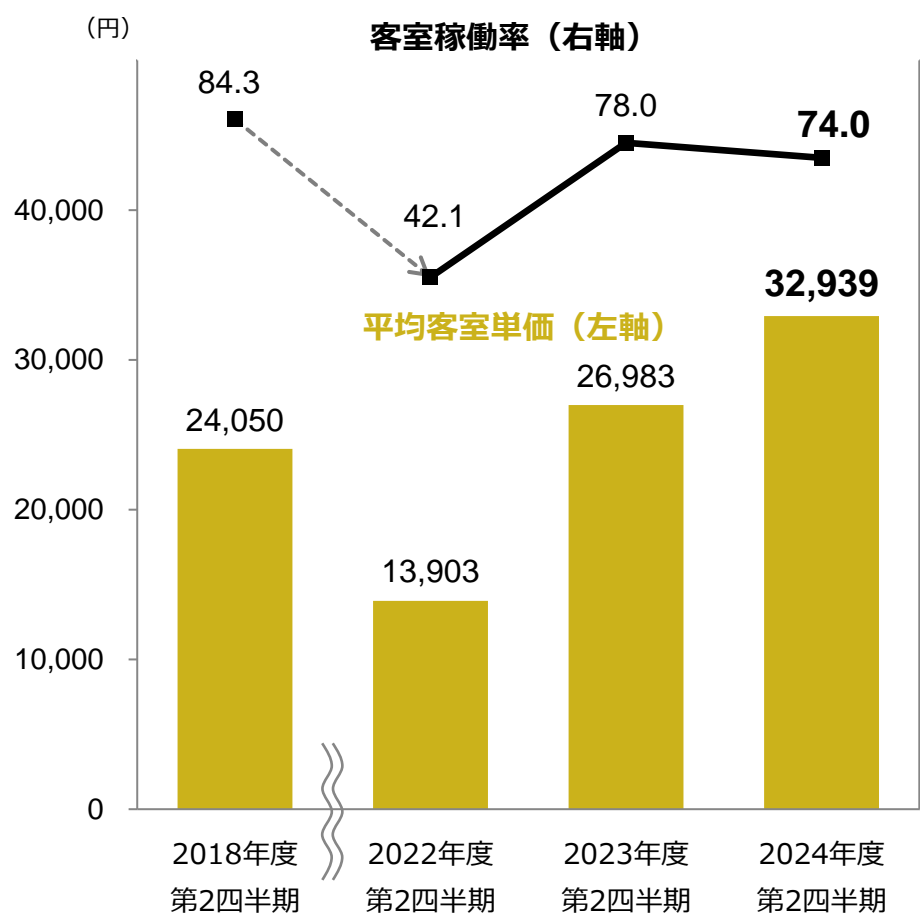
## 不動産販売業



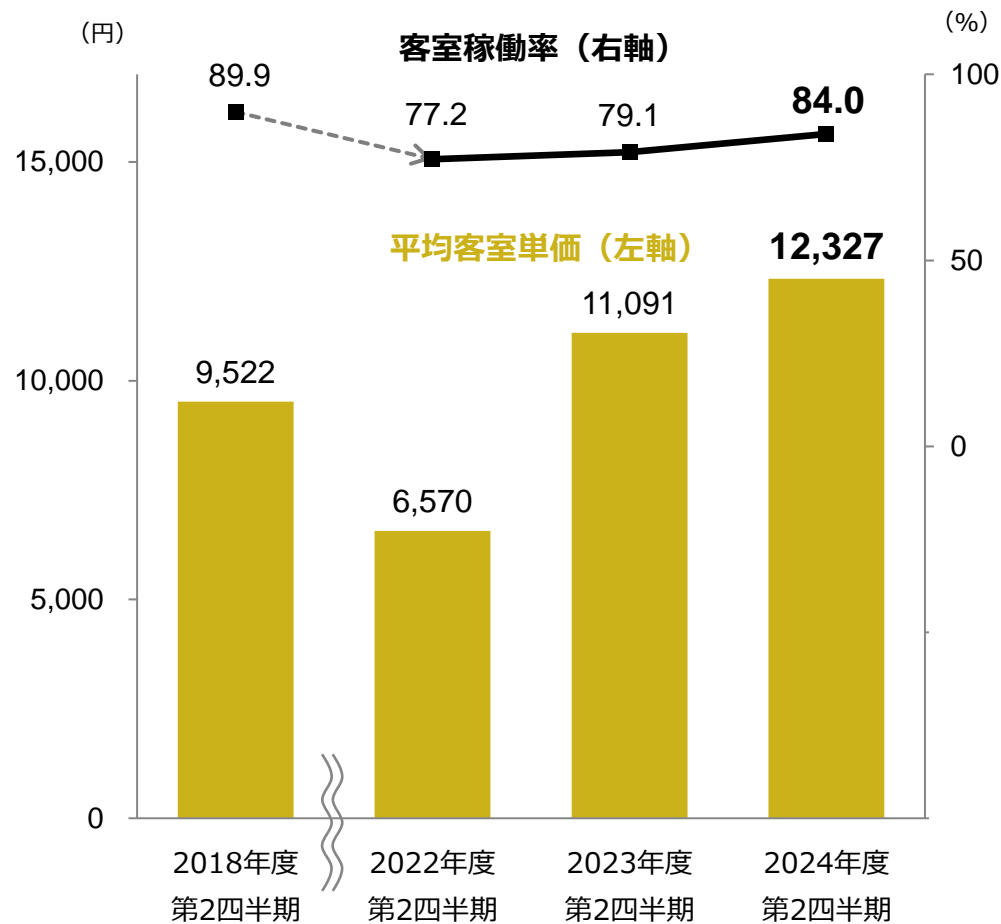
### 3. 主な事業の状況

- 京王プラザホテル（新宿）は、平均客室単価が前年を大幅に上回る
- 京王プレッソインは、客室稼働率・平均客室単価ともに前年を上回る

京王プラザホテル（新宿）



京王プレッソイン（全店舗）



## 4. セグメント別業績

(単位：億円)

		2023年度			2024年度		
		1Q実績 4~6月	2Q実績 7~9月	2Q累計 4~9月	1Q実績 4~6月	2Q実績 7~9月	2Q累計 4~9月
営業収益	運輸業	298	302	601	333	330	664
	流通業	245	237	483	257	250	508
	不動産業	142	153	295	194	229	424
	レジャー・サービス業	159	181	341	185	198	384
	その他業	113	154	268	143	172	316
	連結修正	△72	△77	△149	△67	△87	△155
	連結	887	952	1,840	1,047	1,094	2,141
営業利益	運輸業	46	42	88	71	61	132
	流通業	13	6	20	13	7	21
	不動産業	35	38	73	45	45	90
	レジャー・サービス業	20	24	44	34	27	62
	その他業	3	7	11	3	9	12
	連結修正	0	△0	△0	0	△2	△2
	連結	119	119	239	168	148	317

## 5. 連結財政状態

■ 未払金や有利子負債の減少、中間純利益の計上などにより自己資本比率は39.1%に改善し、財務健全性を維持

	2023年度 実績	2024年度 第2四半期実績	増 減
総 資 産	1兆793億円	1兆560億円	△233億円
負 債	6,854億円	6,430億円	△424億円
純 資 産	3,939億円	4,130億円	190億円
有 利 子 負 債	4,353億円	4,309億円	△43億円

### 財務・安全性指標

	2023年度 実績	2024年度 第2四半期実績
ネット有利子負債残高	3,623億円	3,724億円
自己資本比率	36.4%	39.1%

## **IV. 2024年度通期の業績予想**



# 1. 2024年度通期の業績予想

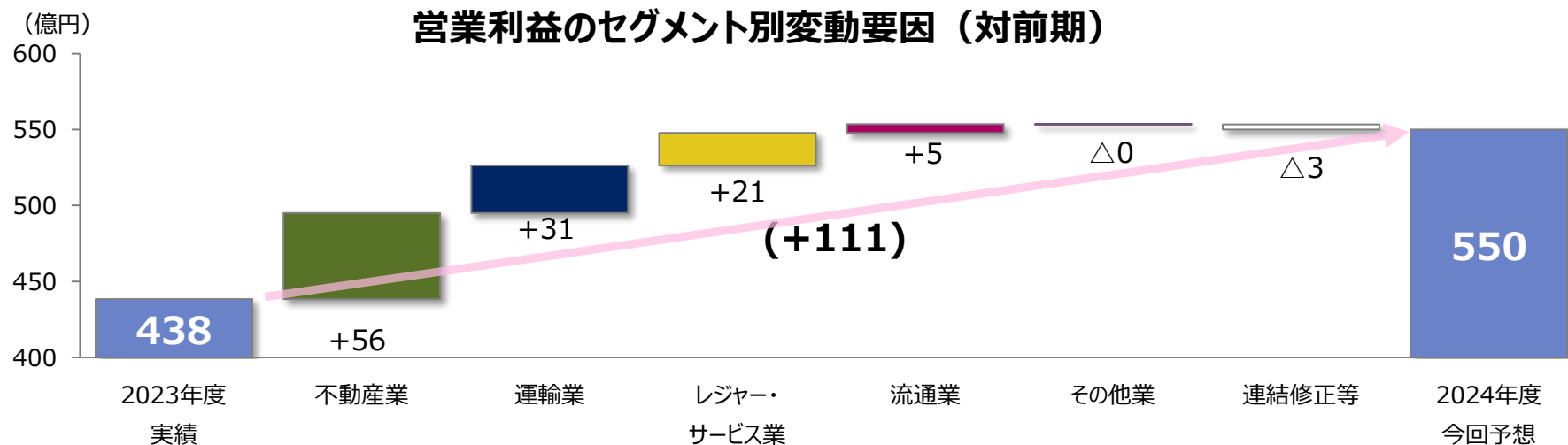
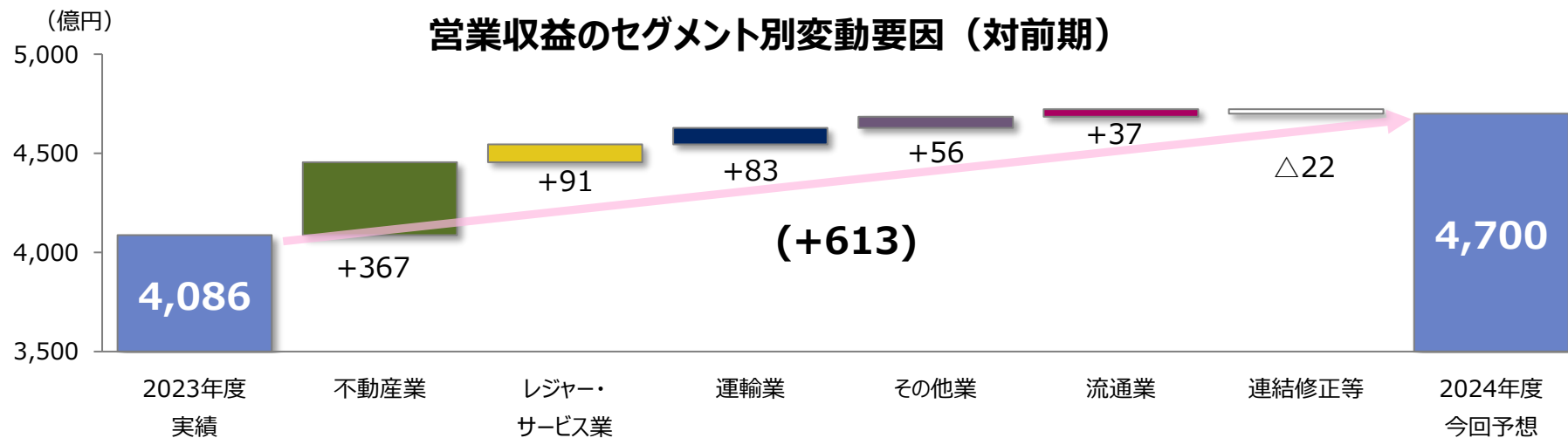
- 不動産販売業において販売戸数が増加する見込みとなったことに加え、ホテル業における客室単価上昇による売上高の増加などにより、対計画で160億円の増収、90億円の増益を見込む

	2023年度 実績	2024年度 今回予想	前年増減	2024年度 計画 <small>(2024.5.10公表ベース)</small>	計画差異
営業収益	4,086億円	4,700億円	613億円	4,540億円	160億円
営業利益	438億円	550億円	111億円	460億円	90億円
経常利益	434億円	536億円	101億円	443億円	93億円
親会社株主に帰属 する当期純利益	292億円	410億円	117億円	342億円	68億円
E B I T D A	746億円	880億円	133億円	796億円	83億円
減価償却費	306億円	328億円	22億円	335億円	△6億円

※EBITDAは、営業利益＋減価償却費＋のれん償却額により算出している

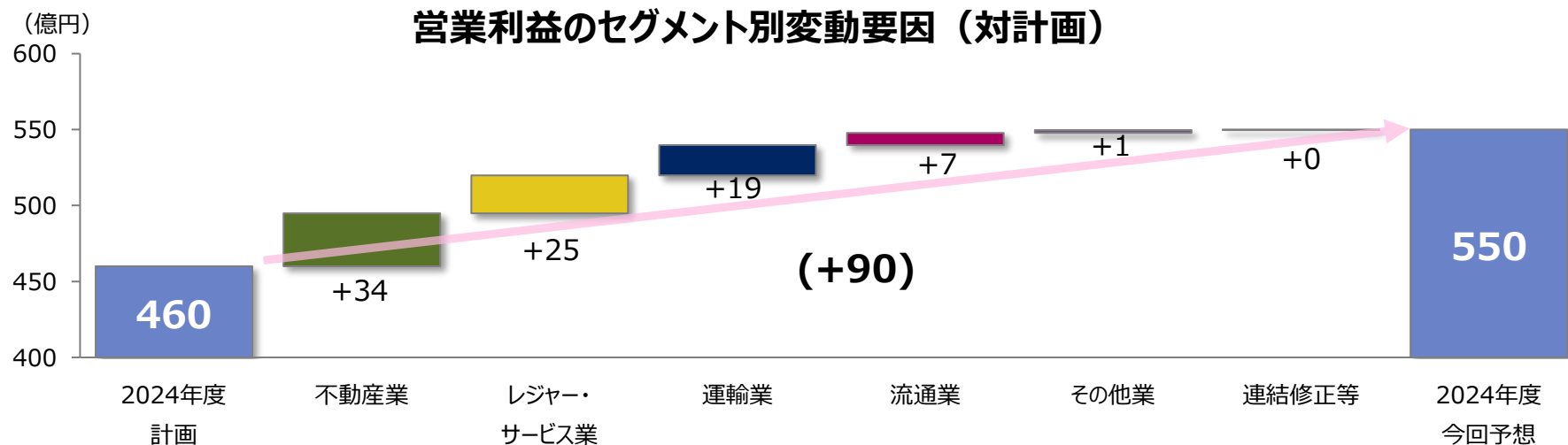
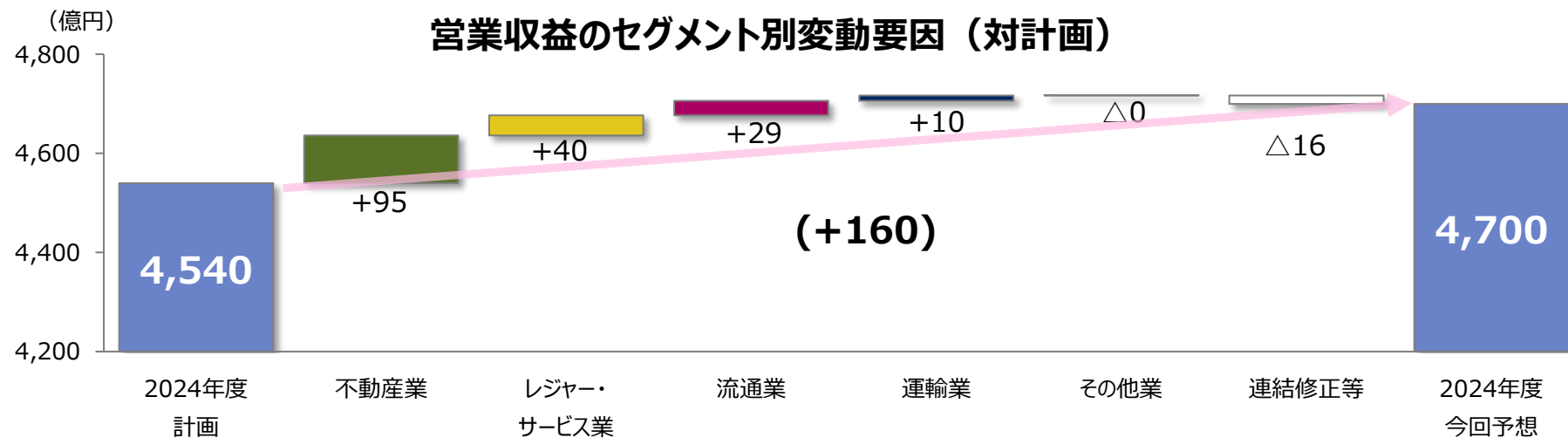
## 2. 営業収益・営業利益の変動要因（対前期比較）

- 不動産販売業におけるバリューアップ投資事業の物件売却による売上増やサンウッド連結子会社化のほか、鉄道旅客運賃の改定、ホテル業の好調継続などにより、対前年で増収増益を見込む



## 2. 営業収益・営業利益の変動要因（対計画比較）

- 不動産業、レジャー・サービス業を中心に、すべてのセグメントで増益を見込む



### 3. 主な事業の見通し

#### 運輸業（鉄道事業）

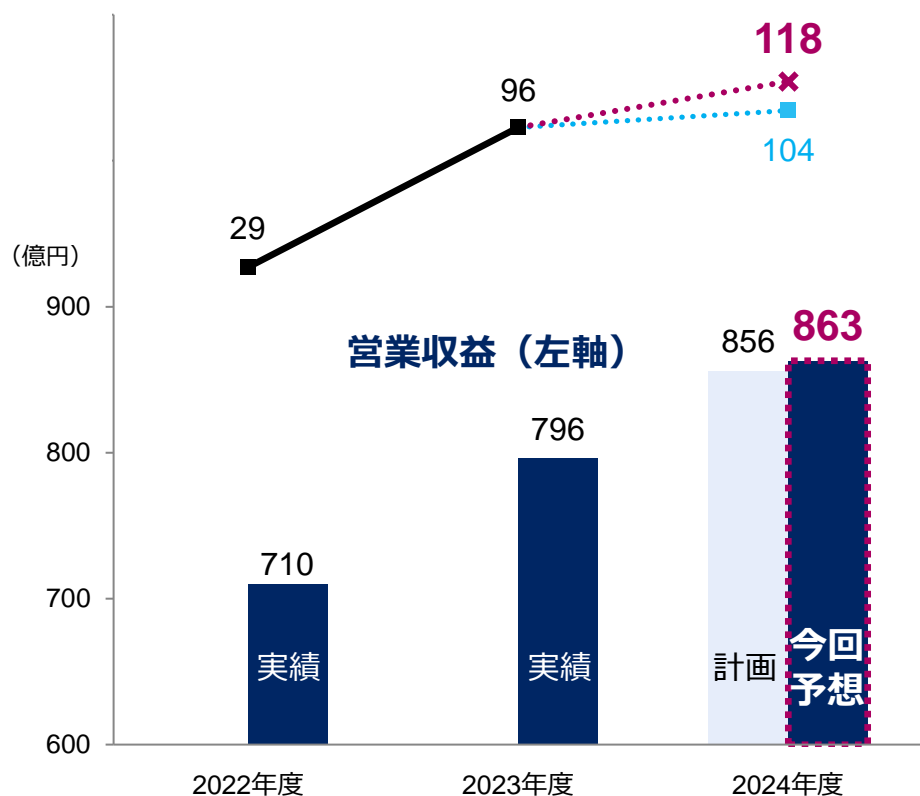
- 上期において、輸送人員が定期・定期外ともに好調に推移したことを踏まえ、対計画で7億円の増収を見込む
- 上記のほか減価償却費や人件費など営業費用の見直しを行い、対計画で13億円の増益を見込む

#### 営業収益・営業利益の推移

— 実績    ..... 計画    ..... 今回予想

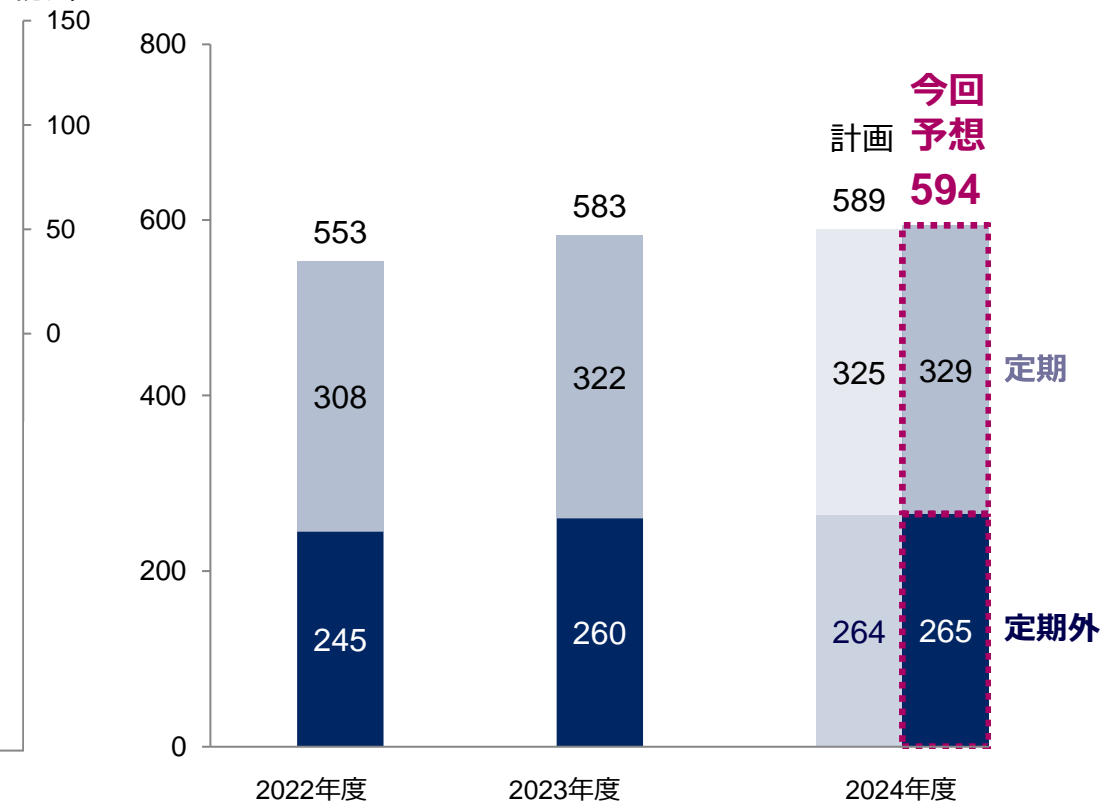
##### 営業利益（右軸）

(億円) (百万人)



#### 輸送人員の推移

(億円) (百万人)

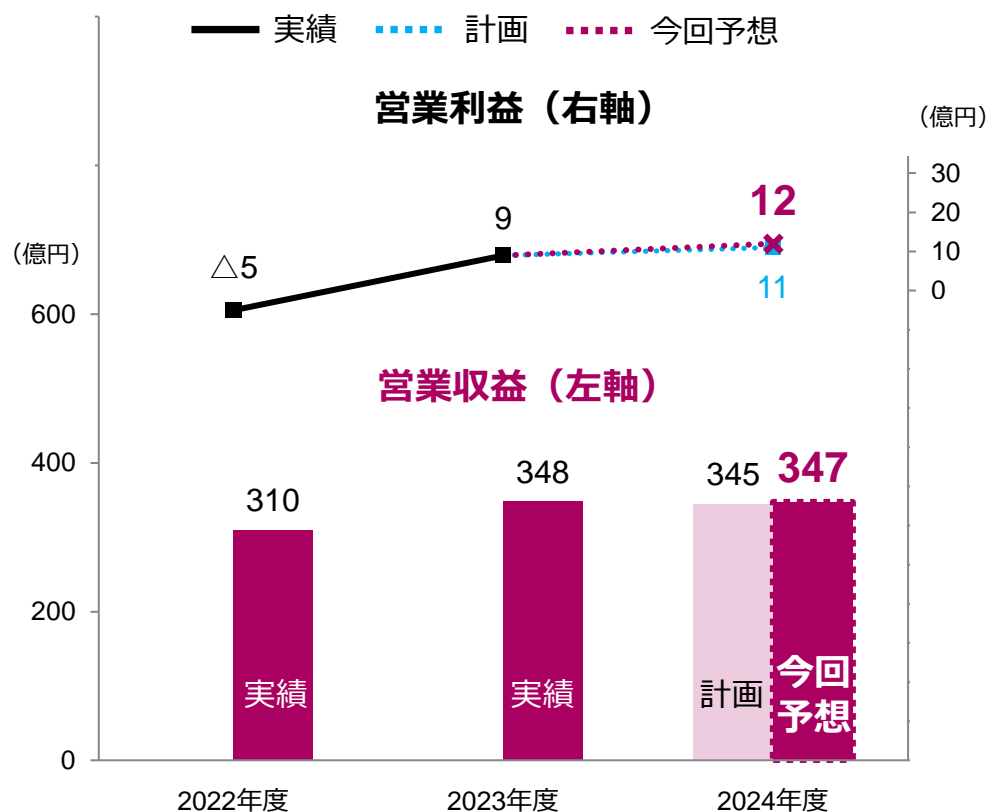


### 3. 主な事業の見通し

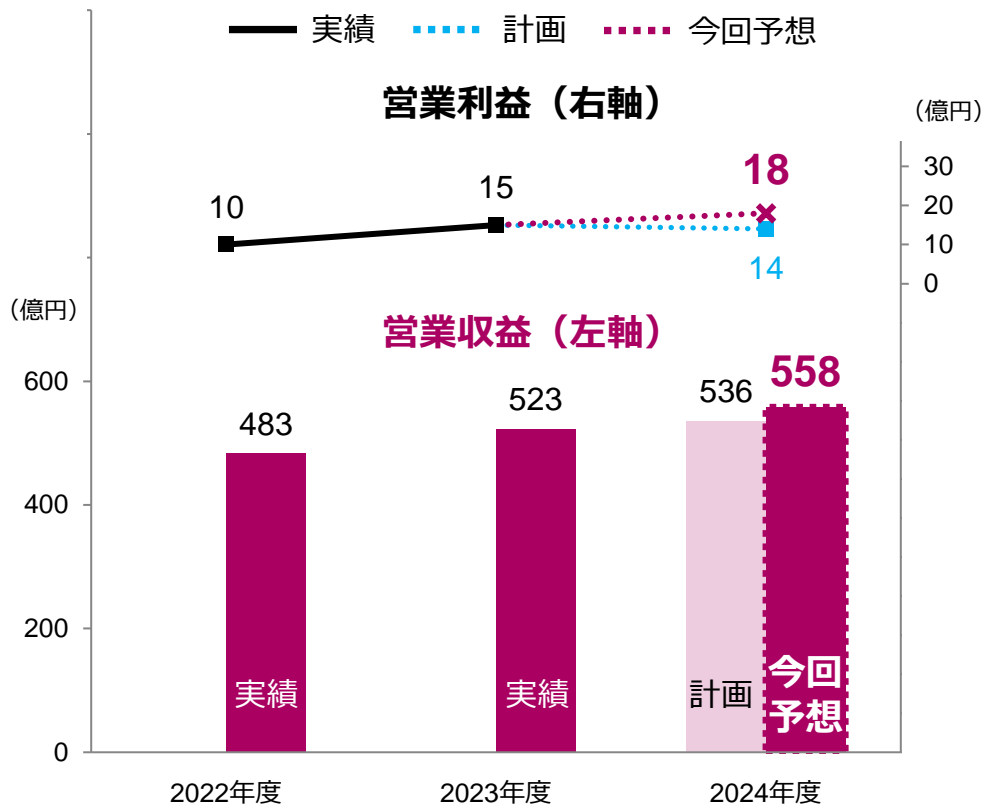
#### 流通業

- 京王百貨店は、上期においてインバウンド需要が好調だったことに加え、営業費用の見直しを行い、対計画で増収増益を見込む
- 京王ストアは、一品単価と客数が好調に推移している状況を踏まえ、対計画で増収増益を見込む

#### 京王百貨店



#### 京王ストア



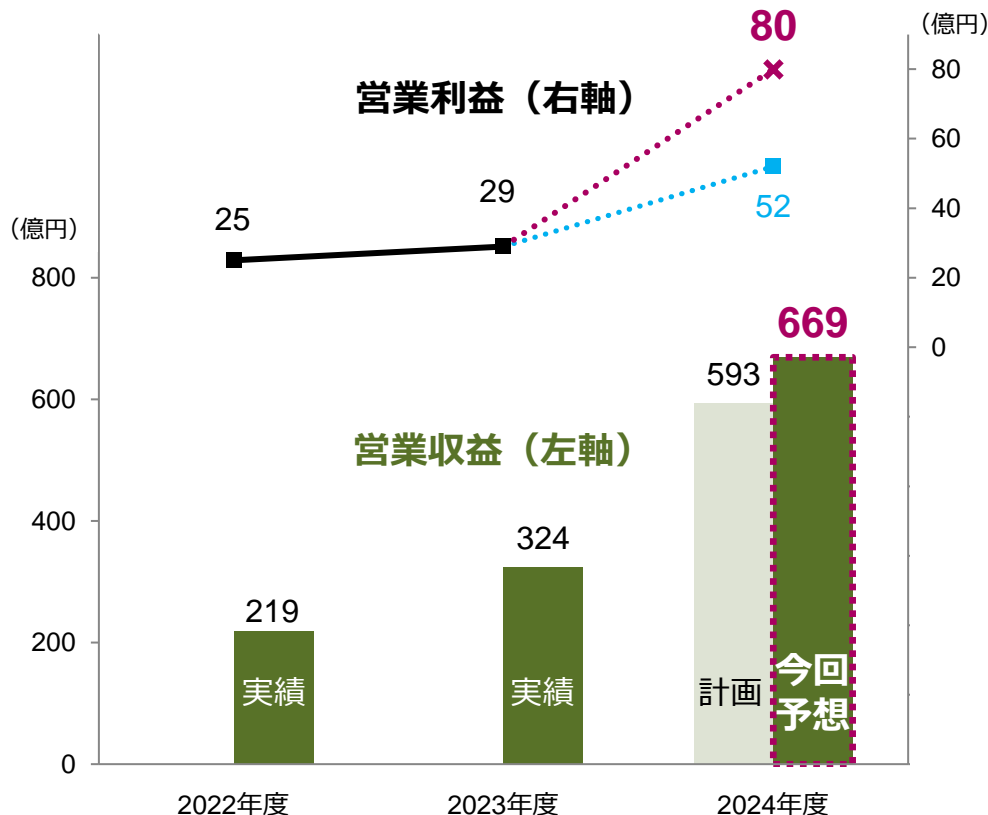
### 3. 主な事業の見通し

#### 不動産業

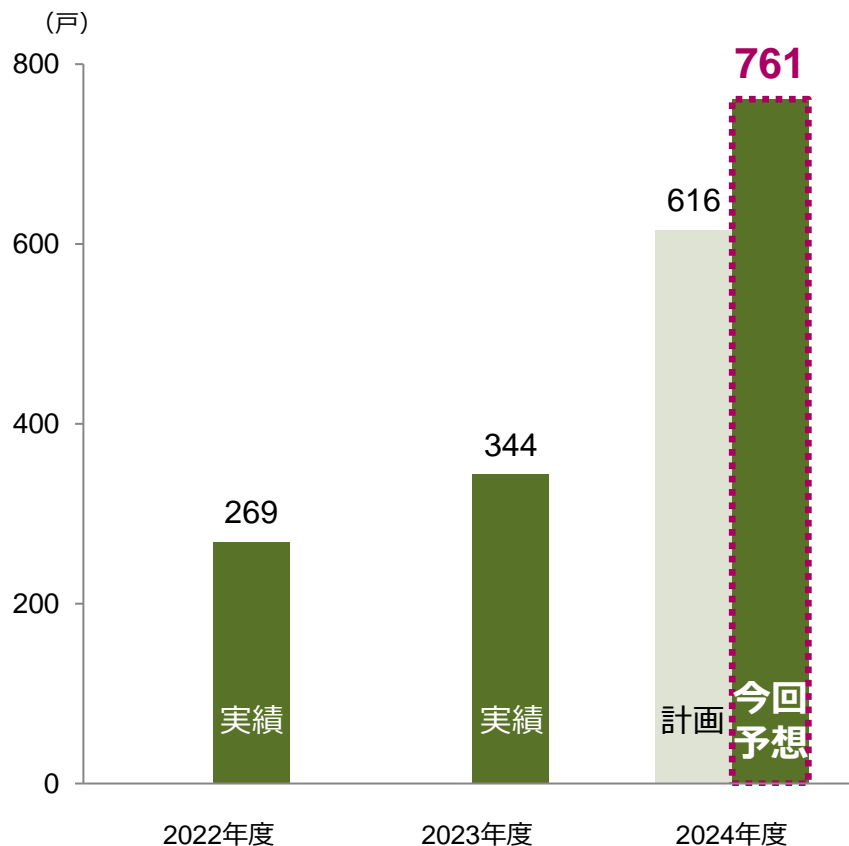
- 不動産販売業では、京王電鉄で売却物件が増加する見込みであることや、リビタでリノベーション物件の販売戸数が大幅に増加する見込みであることを踏まえ、対計画で76億円の増収、27億円の増益を見込む

#### 不動産販売業

— 実績    ..... 計画    ..... 今回予想



#### 販売戸数

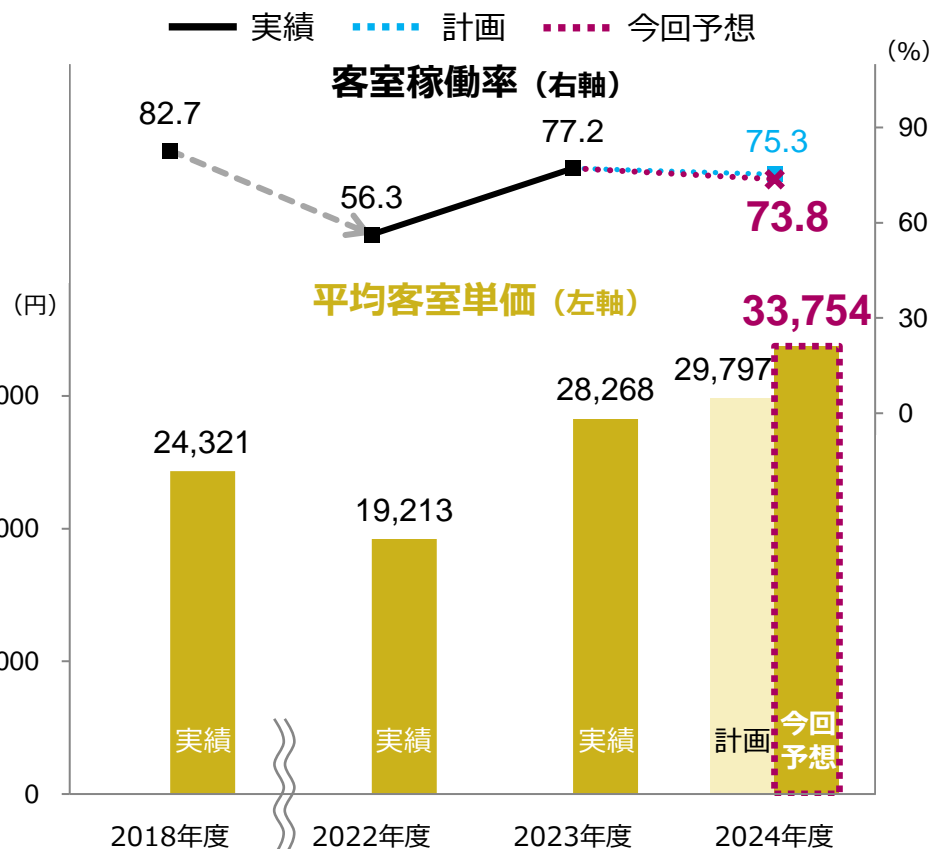


### 3. 主な事業の見通し

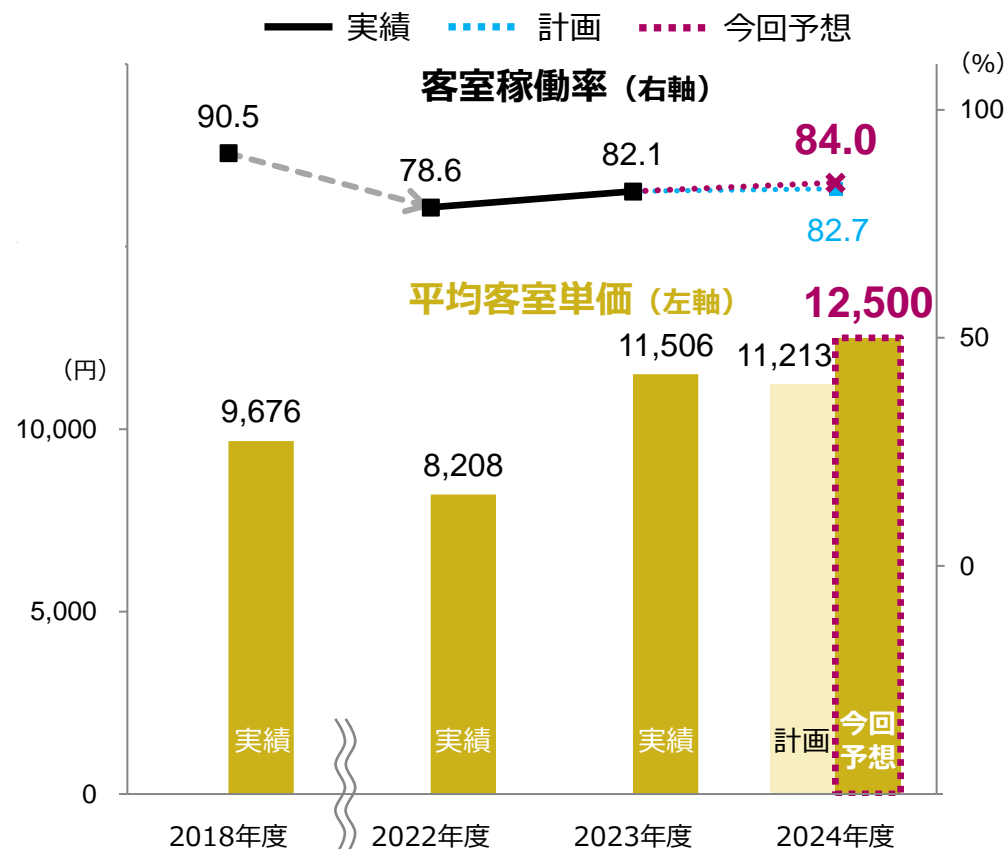
#### レジャー・サービス業（ホテル業）

- 京王プラザホテル（新宿）は、インバウンド需要が高水準で推移しており、平均客室単価が計画を上回る見込み
- 京王プレッソインは、活況な宿泊マーケットを背景に、客室稼働率・平均客室単価が計画を上回る見込み

#### 京王プラザホテル（新宿）



#### 京王プレッソイン（全店舗）



## 4. セグメント別予想

(単位：億円、%)

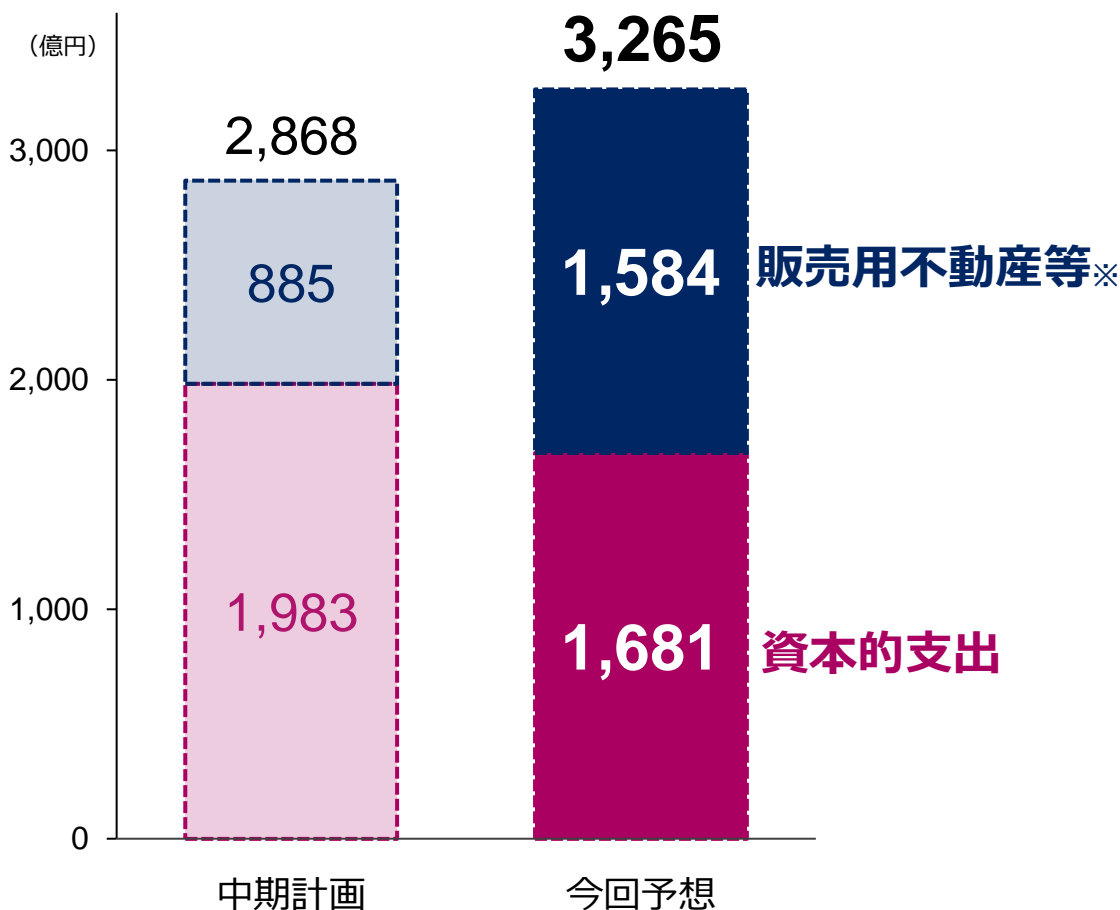
		2024年度通期の業績予想				
		2023年度 実績	2024年度 今回予想	前年増減 (増減率)	2024年度 計画 <small>(2024.5.10公表)</small>	計画差異 (差異率)
営業 収益	運 輸 業	1,241	1,324	83 ( 6.7 )	1,313	10 ( 0.8 )
	流 通 業	1,021	1,058	37 ( 3.7 )	1,029	29 ( 2.9 )
	不 動 産 業	767	1,135	367 ( 47.9 )	1,039	95 ( 9.2 )
	レジャー・サービス業	727	818	91 ( 12.5 )	777	40 ( 5.2 )
	そ の 他 業	784	841	56 ( 7.2 )	841	△ 0 ( △ 0.0 )
	連 結 修 正	△ 455	△ 478	△ 22 ( — )	△ 461	△ 16 ( — )
	連 結	4,086	4,700	613 ( 15.0 )	4,540	160 ( 3.5 )
営業 利益	運 輸 業	131	163	31 ( 23.7 )	143	19 ( 13.9 )
	流 通 業	41	47	5 ( 14.1 )	39	7 ( 20.2 )
	不 動 産 業	134	191	56 ( 42.0 )	156	34 ( 22.2 )
	レジャー・サービス業	83	104	21 ( 25.6 )	79	25 ( 31.4 )
	そ の 他 業	56	56	△ 0 ( △ 0.3 )	54	1 ( 3.6 )
	連 結 修 正	△ 9	△ 13	△ 3 ( — )	△ 13	0 ( — )
	連 結	438	550	111 ( 25.5 )	460	90 ( 19.6 )



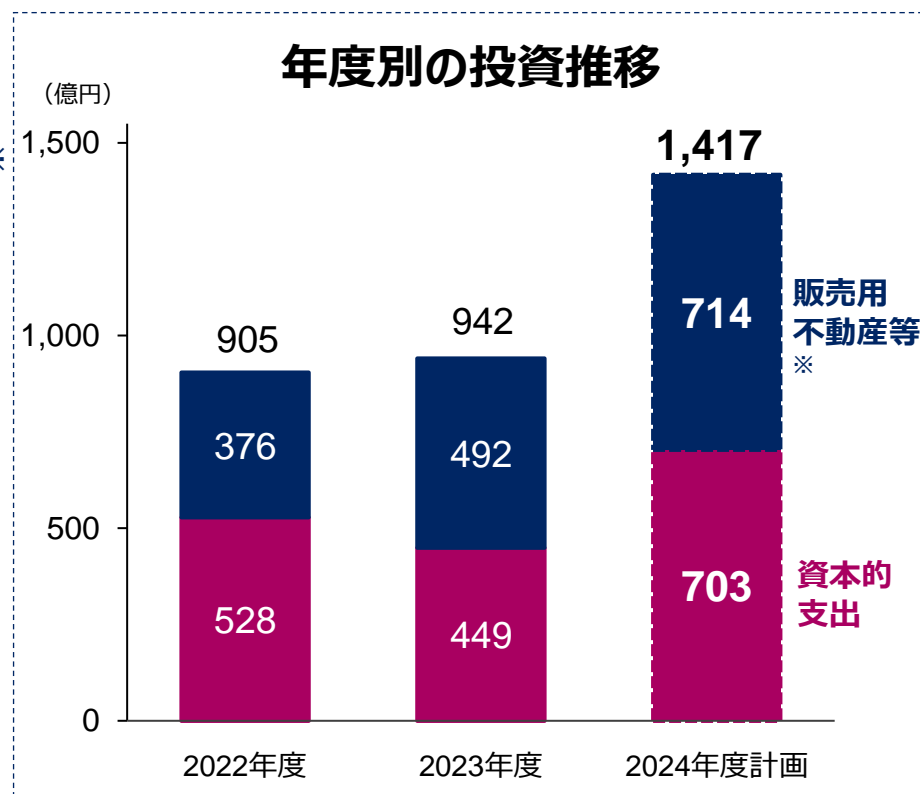
## 5. 投資の見通し

- 2024年度の投資の見通しについては計画を据え置き
- 利益の成長ドライバーと位置付ける販売業の事業展開を加速させ、積極的な仕入れを継続
- 資本的支出は、一部工事進捗の遅れにより中期計画を下回るものの、鉄道事業の安全投資などに引き続き注力

### 2022～2024年度 3カ年累計



※販売用不動産等の金額は、投融資を含む



## V. 参考資料（2024年度第2四半期実績）

1. 連結損益計算書
2. セグメント別の概況
3. セグメント情報（運輸業）
4. セグメント情報（流通業）
5. セグメント情報（不動産業）
6. セグメント情報（レジャー・サービス業）
7. セグメント情報（その他業）
8. 営業外・特別損益
9. 連結貸借対照表
10. 連結キャッシュ・フロー計算書

# 1. 連結損益計算書

(単位：億円、%)

	2024年度第2四半期の業績				
	2023年度 第2四半期 実績	2024年度 第2四半期 実績	前年増減（増減率）	2024年度 第2四半期 計画 <small>(2024.5.10公表ベース)</small>	計画差異（差異率）
営業収益	1,840	2,141	301（16.4）	2,061	80（3.9）
営業利益	239	317	78（32.7）	248	68（27.7）
経常利益	235	312	76（32.3）	239	72（30.0）
親会社株主に帰属する中間純利益	172	251	79（46.0）	197	53（27.1）
EBITDA	383	476	92（24.2）	412	63（15.4）
減価償却費	143	157	14（9.9）	163	△5（△3.2）
資本的支出	116	110	△5（△5.1）	—	—（—）

※EBITDAは、営業利益＋減価償却費＋のれん償却額により算出している。

## 2. セグメント別の概況

- 対前年では、すべてのセグメントで増収増益
- 対当初計画においても、すべてのセグメントで想定を上回り増収増益

(単位：億円、%)

		2024年度第2四半期の業績				
		2023年度 第2四半期 実績	2024年度 第2四半期 実績	前年増減（増減率）	2024年度 第2四半期 計画 <small>(2024.5.10公表ベース)</small>	計画差異（差異率）
営業 収益	運輸業	601	664	63（10.5）	660	4（0.6）
	流通業	483	508	25（5.2）	495	12（2.5）
	不動産業	295	424	128（43.4）	415	8（2.1）
	レジャー・サービス業	341	384	42（12.6）	367	16（4.6）
	その他業	268	316	47（17.7）	306	9（3.2）
	連結修正	△149	△155	△5（—）	△183	28（—）
	連結	1,840	2,141	301（16.4）	2,061	80（3.9）
営業 利益	運輸業	88	132	43（48.8）	112	19（17.3）
	流通業	20	21	1（5.4）	16	5（36.5）
	不動産業	73	90	17（23.7）	71	19（27.1）
	レジャー・サービス業	44	62	17（39.0）	42	19（46.5）
	その他業	11	12	0（8.5）	6	5（76.7）
	連結修正	△0	△2	△2（—）	△1	△0（—）
	連結	239	317	78（32.7）	248	68（27.7）

## 2. セグメント別の概況（四半期別）

(単位：億円)

		2023年度			2024年度		
		1Q実績 4~6月	2Q実績 7~9月	2Q累計 4~9月	1Q実績 4~6月	2Q実績 7~9月	2Q累計 4~9月
営業収益	運輸業	298	302	601	333	330	664
	流通業	245	237	483	257	250	508
	不動産業	142	153	295	194	229	424
	レジャー・サービス業	159	181	341	185	198	384
	その他業	113	154	268	143	172	316
	連結修正	△72	△77	△149	△67	△87	△155
	連結	887	952	1,840	1,047	1,094	2,141
営業利益	運輸業	46	42	88	71	61	132
	流通業	13	6	20	13	7	21
	不動産業	35	38	73	45	45	90
	レジャー・サービス業	20	24	44	34	27	62
	その他業	3	7	11	3	9	12
	連結修正	0	△0	△0	0	△2	△2
	連結	119	119	239	168	148	317

### 3. セグメント情報（運輸業）

- 鉄道事業では、通勤需要や外出機会の増加などにより、輸送人員が定期・定期外ともに前年同期を上回ったことに加え、2023年10月の運賃改定効果などにより増収増益
- バス事業においても、路線・高速などで増収増益

(単位：億円、%)

	2024年度第2四半期の業績		
	2023年度 第2四半期 実績	2024年度 第2四半期 実績	前年増減（増減率）
営業収益	601	664	63（10.5）
（鉄道事業）	378	430	52（13.8）
（バス事業）	181	189	8（4.6）
（タクシー業）	51	53	1（3.3）
（その他）	12	12	0（3.1）
（消去）	△22	△21	0（—）
営業利益	88	132	43（48.8）
（鉄道事業）	62	99	37（59.4）
（バス事業）	25	31	6（24.1）
E B I T D A	169	223	53（31.9）
減価償却費	80	90	10（13.1）
資本的支出	53	58	5（9.4）

### 3. セグメント情報（運輸業）

#### 鉄道事業運輸成績

（単位：千人、百万円、%）

		2024年度第2四半期の業績		
		2023年度 第2四半期 実績	2024年度 第2四半期 実績	前年増減（増減率）
輸送人員	定期	163,522	167,409	3,887（ 2.4 ）
	（通勤）	120,015	123,075	3,060（ 2.5 ）
	（通学）	43,507	44,334	827（ 1.9 ）
	定期外	130,530	131,686	1,156（ 0.9 ）
	合計	294,052	299,095	5,043（ 1.7 ）
旅客運輸収入	定期	13,831	15,849	2,017（ 14.6 ）
	（通勤）	12,228	14,227	1,999（ 16.3 ）
	（通学）	1,603	1,621	18（ 1.2 ）
	定期外	21,805	24,902	3,096（ 14.2 ）
	合計	35,637	40,751	5,114（ 14.4 ）

### 3. セグメント情報 (運輸業)

#### 鉄道事業 輸送人員合計



#### 2024年度 鉄道輸送人員 (対前年比)

	(単位: %)									(参考)		
	4月	5月	6月	1Q累計	7月	8月	9月	2Q累計	下期予想	通期予想	当初計画 (通期)	
定期計	3.2	2.4	1.8	2.4	2.3	2.5	2.1	2.4	1.9	2.1	0.8	
通勤	3.4	3.1	2.3	2.9	2.6	2.1	1.8	2.5	2.4	2.5	△0.5	
通学	2.9	0.8	0.4	1.3	1.5	4.0	2.9	1.9	0.4	1.2	4.6	
定期外	1.7	1.4	3.1	2.0	0.7	△3.5	2.0	0.9	2.2	1.6	1.2	
合計	2.5	1.9	2.3	2.3	1.6	△0.2	2.1	1.7	2.0	1.9	1.0	



### 3. セグメント情報 (運輸業)

#### 鉄道事業 旅客運輸収入合計



#### 2024年度 旅客運輸収入 (対前年比)

	(単位: %)								(参考)		
	4月	5月	6月	1Q累計	7月	8月	9月	2Q累計	下期予想	通期予想	当初計画 (通期)
定期計	15.4	14.7	13.9	14.7	14.5	14.8	14.2	14.6	7.3	10.8	9.0
通勤	17.1	17.0	16.1	16.7	16.4	16.0	15.6	16.3	7.9	11.9	9.4
通学	2.1	△0.0	△0.3	0.5	0.7	3.3	2.3	1.2	2.4	1.7	5.6
定期外	15.1	14.7	17.4	15.7	14.1	8.4	15.6	14.2	2.3	7.9	7.8
合計	15.2	14.7	16.0	15.3	14.2	10.8	15.1	14.4	4.2	9.0	8.3

## 4. セグメント情報（流通業）

- ストア業では、来店客数の増加や新規出店などによるスーパーマーケット事業の増収に加え、コンビニ事業やドラッグストア事業が好調に推移し増収増益

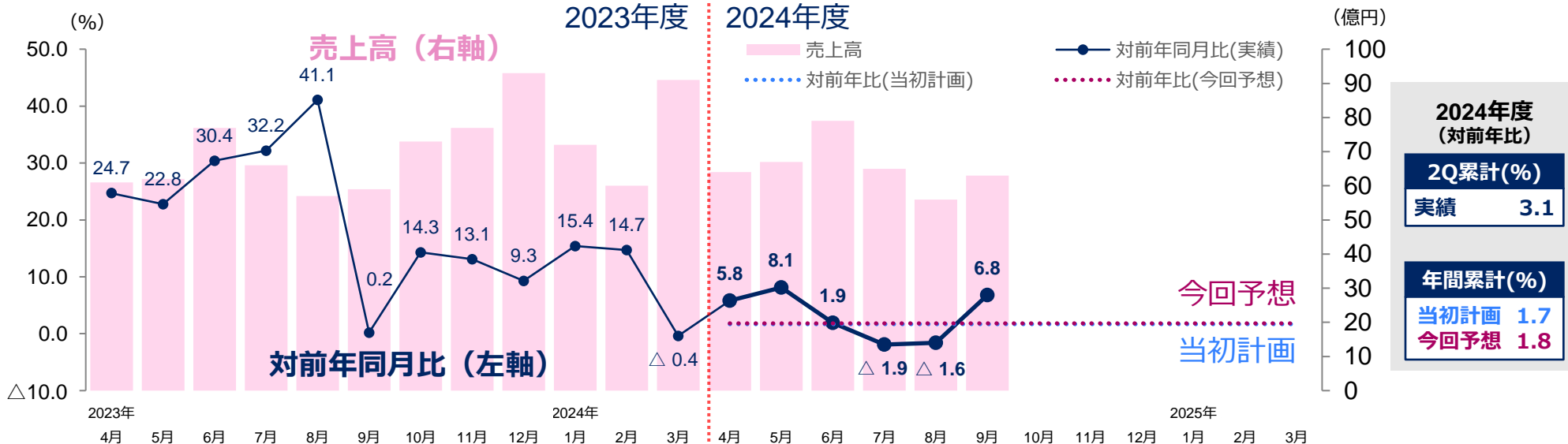
（単位：億円、%）

	2024年度第2四半期の業績		
	2023年度 第2四半期 実績	2024年度 第2四半期 実績	前年増減（増減率）
営業収益	483	508	25（5.2）
（百貨店業）	171	174	3（2.1）
（ストア業）	256	276	20（7.9）
（その他）	70	71	1（1.5）
（消去）	△14	△14	0（—）
営業利益	20	21	1（5.4）
（百貨店業）	11	11	△0（△1.9）
（ストア業）	10	11	0（3.8）
E B I T D A	29	33	4（14.2）
減価償却費	8	11	3（35.8）
資本的支出	3	1	△2（△61.9）

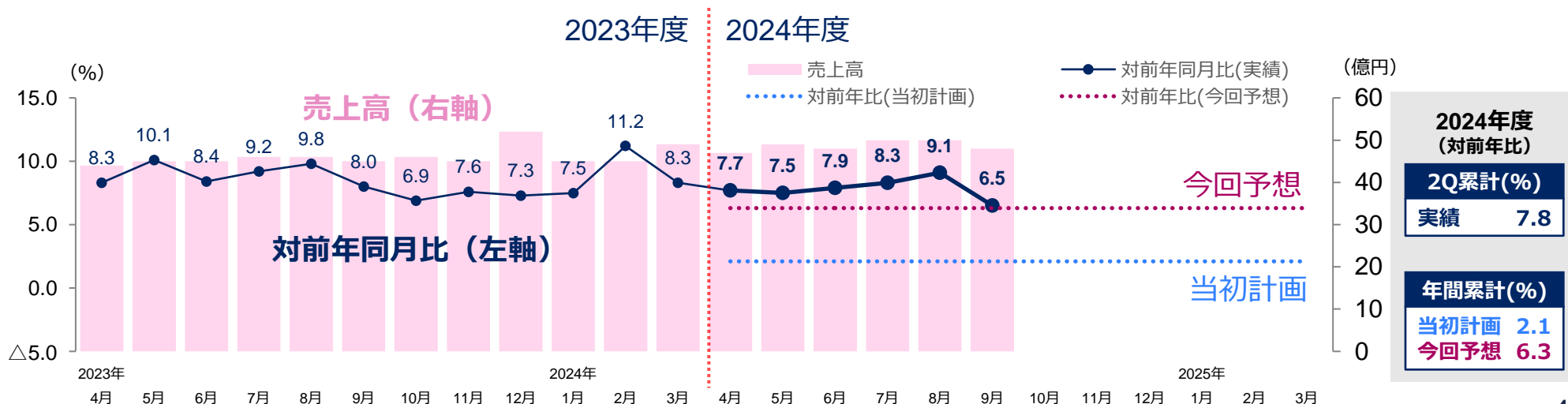
※2024年度よりセグメント区分を変更したため、2023年度も組み替えて表示している。（セグメント区分変更の概要はP.62を参照）

# 4. セグメント情報 (流通業)

## 百貨店業 (京王百貨店) 売上高 (「収益認識に関する会計基準」等適用前に換算)



## ストア業 (京王ストア) 売上高 (「収益認識に関する会計基準」等適用前に換算)



## 5. セグメント情報（不動産業）

■不動産販売業では、高価格帯リノベーション物件の売上増や投資用マンションの販売などにより増収増益

（単位：億円、%）

	2024年度第2四半期の業績		
	2023年度 第2四半期 実績	2024年度 第2四半期 実績	前年増減（増減率）
営業収益	295	424	128（43.4）
（不動産賃貸業）	252	290	37（14.7）
（不動産販売業）	77	193	116（150.6）
（その他）	22	22	△0（△2.2）
（消去）	△57	△81	△24（—）
営業利益	73	90	17（23.7）
（不動産賃貸業）	61	65	3（5.4）
（不動産販売業）	7	23	15（206.8）
E B I T D A	107	126	18（17.3）
減価償却費	34	35	1（3.7）
資本的支出	24	12	△11（△46.1）

※2024年度よりセグメント区分を変更したため、2023年度も組み替えて表示している。（セグメント区分変更の概要はP.62を参照）

## 6. セグメント情報（レジャー・サービス業）

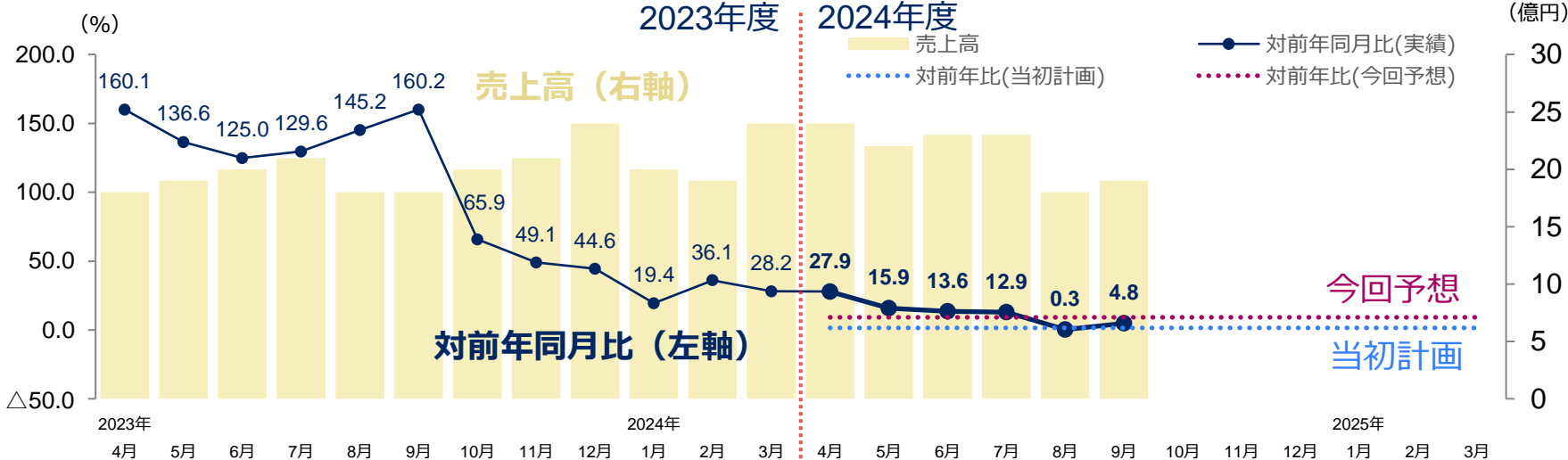
- ホテル業では、訪日外国人旅行客の増加や活況な宿泊マーケットを背景に、「京王プラザホテル（新宿）」や「京王プレッソイン」などの客室単価が大きく上昇し増収増益

（単位：億円、%）

	2024年度第2四半期の業績		
	2023年度 第2四半期 実績	2024年度 第2四半期 実績	前年増減（増減率）
営業収益	341	384	42（12.6）
（ホテル業）	264	310	45（17.3）
（旅行業）	51	60	9（17.4）
（広告代理業）	34	32	△2（△7.9）
（その他）	31	32	1（5.8）
（消去）	△40	△51	△10（—）
営業利益	44	62	17（39.0）
（ホテル業）	46	60	14（31.1）
E B I T D A	64	81	17（26.5）
減価償却費	19	19	△0（△2.1）
資本的支出	7	9	2（29.6）

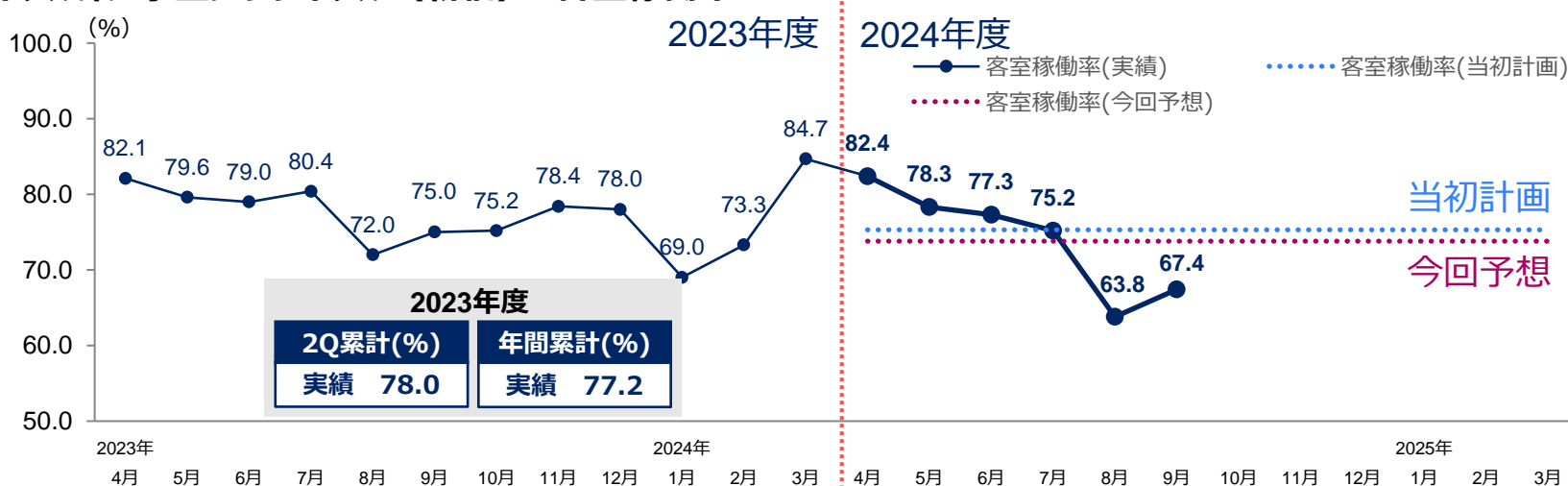
# 6. セグメント情報 (レジャー・サービス業)

## ホテル業 京王プラザホテル (新宿) 売上高



2024年度 (対前年比)	
2Q累計(%)	実績 12.7
年間累計(%)	当初計画 1.6
	今回予想 9.2

## ホテル業 京王プラザホテル (新宿) 客室稼働率



2023年度	
2Q累計(%)	実績 78.0
年間累計(%)	実績 77.2

2024年度	
2Q累計(%)	実績 74.0
年間累計(%)	当初計画 75.3
	今回予想 73.8

## 7. セグメント情報（その他業）

■ 建築・土木業では、完成工事高の増加などにより増収増益

（単位：億円、%）

	2024年度第2四半期の業績		
	2023年度 第2四半期 実績	2024年度 第2四半期 実績	前年増減（増減率）
営業収益	268	316	47（17.7）
（ビル総合管理業）	111	111	△0（△0.2）
（車両整備業）	37	37	0（0.9）
（建築・土木業）	80	127	46（57.7）
（その他）	47	50	3（6.7）
（消去）	△7	△10	△2（—）
営業利益	11	12	0（8.5）
（ビル総合管理業）	6	6	△0（△10.3）
（車両整備業）	3	2	△0（△18.0）
（建築・土木業）	0	3	3（—）
E B I T D A	14	15	1（9.5）
減価償却費	2	2	△0（△1.4）
資本的支出	6	3	△2（△42.7）

## 8. 営業外・特別損益

(単位：億円)

	2023年度 第2四半期 実績	2024年度 第2四半期 実績	増減	増減要因
営業収益	1,840	2,141	301	
営業利益	239	317	78	
営業外収益	13	14	1	
営業外費用	16	20	3	
経常利益	235	312	76	
特別利益	2	16	13	固定資産売却益 + 12億円
特別損失	3	7	4	
法人税等	62	68	5	
親会社株主に帰属する 中間純利益	172	251	79	



## 9. 連結貸借対照表

- 総資産は、運転資本の減少などにより減少
- 負債は、工事代金の支払いなどにより減少
- 純資産は、親会社株主に帰属する中間純利益の計上などにより増加

(単位：億円)

	2023年度 実績	2024年度 第2四半期 実績	増 減	増減要因
流 動 資 産	2,482	2,355	△127	現金及び預金△145億円、 受取手形、売掛金及び契約資産△143億円、仕掛品+151億円
固 定 資 産	8,311	8,204	△106	有形固定資産△70億円
<b>総 資 産</b>	<b>10,793</b>	<b>10,560</b>	<b>△233</b>	
流 動 負 債	2,748	2,449	△299	未払金の減など
固 定 負 債	4,106	3,980	△125	長期借入金△118億円
<b>負 債</b>	<b>6,854</b>	<b>6,430</b>	<b>△424</b>	
<b>純 資 産</b>	<b>3,939</b>	<b>4,130</b>	<b>190</b>	利益剰余金+216億円
<b>負債及び純資産</b>	<b>10,793</b>	<b>10,560</b>	<b>△233</b>	

<b>有 利 子 負 債</b>	<b>4,353</b>	<b>4,309</b>	<b>△43</b>
<b>自 己 資 本 比 率</b>	<b>36.4%</b>	<b>39.1%</b>	<b>2.7P</b>

(注) 有利子負債は、借入金＋社債により算出している。

# 10. 連結 キャッシュ・フロー計算書

(単位：億円)

	2023年度 第2四半期 実績	2024年度 第2四半期 実績	増 減	備 考
営 業 活 動 キャッシュ・フロー	308	204	△104	税金等調整前中間純利益+320億円 減価償却費+157億円
投 資 活 動 キャッシュ・フロー	△258	△255	3	有形及び無形固定資産の取得による支出△349億円
フリーキャッシュ・フロー (営業CF+投資CF)	49	△50	△100	
財 務 活 動 キャッシュ・フロー	32	△94	△127	長期借入金の返済による支出△86億円
現 金 及 び 現 金 同 等 物 の 期 末 残 高	792	585	△207	

## V. 参考資料（2024年度通期の業績予想）

1. 連結損益計算書
2. セグメント別の概況
3. セグメント情報（運輸業）
4. セグメント情報（流通業）
5. セグメント情報（不動産業）
6. セグメント情報（レジャー・サービス業）
7. セグメント情報（その他業）

# 1. 連結損益計算書

- 不動産販売業において販売戸数が増加する見込みとなったことに加え、ホテル業における客室単価上昇による売上高の増加などにより、各段階利益は前回公表した当初計画を上回る見込み

(単位：億円、%)

	2024年度通期の業績予想				
	2023年度 実績	2024年度 今回予想	前年増減（増減率）	2024年度 当初計画 <small>(2024.5.10公表)</small>	計画差異（差異率）
営業収益	4,086	4,700	613（15.0）	4,540	160（3.5）
営業利益	438	550	111（25.5）	460	90（19.6）
経常利益	434	536	101（23.3）	443	93（21.0）
親会社株主に帰属する当期純利益	292	410	117（40.2）	342	68（19.9）
E B I T D A	746	880	133（17.9）	796	83（10.5）
減価償却費	306	328	22（7.3）	335	△6（△2.0）
資本的支出	449	703	253（56.4）	703	—（—）

# 1. 連結損益計算書（下期予想）

（単位：億円）

	2024年度 上期実績 (4~9月)	2024年度 下期予想 (10~3月)	2024年度 通期予想 (4~3月)
営 業 収 益	2,141	2,558	4,700
営 業 利 益	317	232	550
経 常 利 益	312	223	536
親会社株主に帰属する当期純利益	251	158	410
E B I T D A	476	404	880
減 価 償 却 費	157	170	328

## 2. セグメント別の概況

(単位：億円、%)

		2024年度通期の業績予想				
		2023年度 実績	2024年度 今回予想	前年増減（増減率）	2024年度 当初計画 <small>(2024.5.10公表)</small>	計画差異（差異率）
営業 収益	運 輸 業	1,241	1,324	83 ( 6.7 )	1,313	10 ( 0.8 )
	流 通 業	1,021	1,058	37 ( 3.7 )	1,029	29 ( 2.9 )
	不 動 産 業	767	1,135	367 ( 47.9 )	1,039	95 ( 9.2 )
	レジャー・サービス業	727	818	91 ( 12.5 )	777	40 ( 5.2 )
	そ の 他 業	784	841	56 ( 7.2 )	841	△ 0 ( △ 0.0 )
	連 結 修 正	△ 455	△ 478	△ 22 ( — )	△ 461	△ 16 ( — )
	連 結	4,086	4,700	613 ( 15.0 )	4,540	160 ( 3.5 )
営業 利益	運 輸 業	131	163	31 ( 23.7 )	143	19 ( 13.9 )
	流 通 業	41	47	5 ( 14.1 )	39	7 ( 20.2 )
	不 動 産 業	134	191	56 ( 42.0 )	156	34 ( 22.2 )
	レジャー・サービス業	83	104	21 ( 25.6 )	79	25 ( 31.4 )
	そ の 他 業	56	56	△ 0 ( △ 0.3 )	54	1 ( 3.6 )
	連 結 修 正	△ 9	△ 13	△ 3 ( — )	△ 13	0 ( — )
	連 結	438	550	111 ( 25.5 )	460	90 ( 19.6 )

## 2. セグメント別の概況（下期予想）

（単位：億円）

	営業収益			営業利益		
	2024年度 上期実績 (4~9月)	2024年度 下期予想 (10~3月)	2024年度 通期予想 (4~3月)	2024年度 上期実績 (4~9月)	2024年度 下期予想 (10~3月)	2024年度 通期予想 (4~3月)
運 輸 業	664	659	1,324	132	31	163
流 通 業	508	550	1,058	21	25	47
不 動 産 業	424	711	1,135	90	100	191
レジャー・サービス業	384	433	818	62	42	104
そ の 他 業	316	525	841	12	43	56
連 結 修 正	△ 155	△ 322	△ 478	△ 2	△ 10	△ 13
連 結	2,141	2,558	4,700	317	232	550

### 3. セグメント情報（運輸業）

(単位：億円、%)

	2024年度通期の業績予想				
	2023年度 実績	2024年度 今回予想	前年増減（増減率）	2024年度 当初計画 <small>（2024.5.10公表）</small>	計画差異（差異率）
営業収益	1,241	1,324	83（6.7）	1,313	10（0.8）
（鉄道事業）	796	863	67（8.4）	856	7（0.8）
（バス事業）	361	368	7（2.1）	364	4（1.1）
（タクシー業）	104	106	2（2.1）	111	△4（△4.1）
（その他）	25	25	0（0.2）	26	△0（△2.3）
（消去）	△46	△39	6（－）	△44	4（－）
営業利益	131	163	31（23.7）	143	19（13.9）
（鉄道事業）	96	118	21（22.1）	104	13（12.7）
（バス事業）	32	33	1（3.8）	32	1（4.7）
E B I T D A	305	352	46（15.3）	335	16（5.0）
減価償却費	173	188	15（9.0）	192	△3（△1.7）
資本的支出	270	442	171（63.3）	442	－（－）



### 3. セグメント情報（運輸業）

#### 鉄道事業運輸成績

（単位：千人、百万円、％）

		2024年度通期の業績予想				
		2023年度 実績	2024年度 今回予想	前年増減（増減率）	2024年度 当初計画 <small>（2024.5.10公表）</small>	計画差異（差異率）
輸 送 人 員	定 期	322,689	329,582	6,893（ 2.1 ）	325,318	4,264（ 1.3 ）
	（ 通 勤 ）	239,615	245,508	5,893（ 2.5 ）	238,420	7,088（ 3.0 ）
	（ 通 学 ）	83,074	84,074	1,000（ 1.2 ）	86,898	△ 2,824（ △ 3.3 ）
	定 期 外	260,996	265,045	4,049（ 1.6 ）	264,065	980（ 0.4 ）
	合 計	583,685	594,627	10,942（ 1.9 ）	589,383	5,244（ 0.9 ）
旅 客 運 輸 収 入	定 期	28,546	31,641	3,095（ 10.8 ）	31,126	514（ 1.7 ）
	（ 通 勤 ）	25,492	28,534	3,041（ 11.9 ）	27,901	633（ 2.3 ）
	（ 通 学 ）	3,053	3,106	53（ 1.7 ）	3,225	△ 118（ △ 3.7 ）
	定 期 外	46,570	50,235	3,665（ 7.9 ）	50,213	22（ 0.0 ）
	合 計	75,116	81,877	6,760（ 9.0 ）	81,339	537（ 0.7 ）

## 4. セグメント情報（流通業）

（単位：億円、％）

	2024年度通期の業績予想				
	2023年度 実績	2024年度 今回予想	前年増減（増減率）	2024年度 当初計画 <small>（2024.5.10公表）</small>	計画差異（差異率）
営業収益	1,021	1,058	37（ 3.7）	1,029	29（ 2.9）
（百貨店業）	380	379	△1（ △0.4）	377	1（ 0.4）
（ストア業）	523	558	35（ 6.8）	536	22（ 4.2）
（その他）	147	147	0（ 0.2）	145	1（ 1.2）
（消去）	△29	△26	3（ —）	△30	3（ —）
営業利益	41	47	5（ 14.1）	39	7（ 20.2）
（百貨店業）	28	27	△0（ △2.2）	25	2（ 9.5）
（ストア業）	15	18	2（ 13.0）	14	3（ 22.2）
E B I T D A	62	74	11（ 18.6）	66	7（ 11.3）
減価償却費	21	27	5（ 27.2）	27	△0（ △1.5）
資本的支出	11	14	2（ 23.8）	14	—（ —）

※2024年度よりセグメント区分を変更したため、2023年度も組み替えて表示している。（セグメント区分変更の概要はP.62を参照）

## 5. セグメント情報（不動産業）

（単位：億円、%）

	2024年度通期の業績予想				
	2023年度 実績	2024年度 今回予想	前年増減（増減率）	2024年度 当初計画 <small>（2024.5.10公表）</small>	計画差異（差異率）
営業収益	767	1,135	367（47.9）	1,039	95（9.2）
（不動産賃貸業）	524	588	64（12.3）	571	17（3.1）
（不動産販売業）	324	669	345（106.5）	593	76（12.9）
（その他）	44	46	1（3.6）	44	2（4.5）
（消去）	△125	△169	△43（—）	△169	0（—）
営業利益	134	191	56（42.0）	156	34（22.2）
（不動産賃貸業）	107	109	1（1.7）	101	8（8.4）
（不動産販売業）	29	80	51（176.9）	52	27（51.6）
E B I T D A	206	263	57（27.7）	230	32（14.2）
減価償却費	70	71	1（1.9）	73	△2（△2.9）
資本的支出	88	161	72（81.2）	161	—（—）

※2024年度よりセグメント区分を変更したため、2023年度も組み替えて表示している。（セグメント区分変更の概要はP.62を参照）

## 6. セグメント情報（レジャー・サービス業）

（単位：億円、%）

	2024年度通期の業績予想				
	2023年度 実績	2024年度 今回予想	前年増減（増減率）	2024年度 当初計画 (2024.5.10公表)	計画差異（差異率）
営業収益	727	818	91（12.5）	777	40（5.2）
（ホテル業）	583	649	65（11.3）	596	52（8.8）
（旅行業）	107	121	14（13.1）	134	△13（△9.7）
（広告代理業）	85	98	13（15.5）	99	△0（△0.8）
（その他）	61	65	3（5.4）	64	1（1.7）
（消去）	△111	△116	△5（－）	△117	0（－）
営業利益	83	104	21（25.6）	79	25（31.4）
（ホテル業）	79	94	14（18.7）	69	25（36.6）
E B I T D A	123	144	21（17.4）	120	24（20.1）
減価償却費	39	39	0（0.4）	40	△0（△2.0）
資本的支出	49	70	20（41.0）	70	－（－）

### （参考）宿泊指標

	稼働率(%)			平均室料(円)		
	2023年度 実績	2024年度 今回予想	2024年度 当初計画	2023年度 実績	2024年度 今回予想	2024年度 当初計画
京王プラザホテル（新宿）	77.2	73.8	75.3	28,268	33,754	29,797
京王プレッソイン（全店舗）	82.1	84.0	82.7	11,506	12,500	11,213

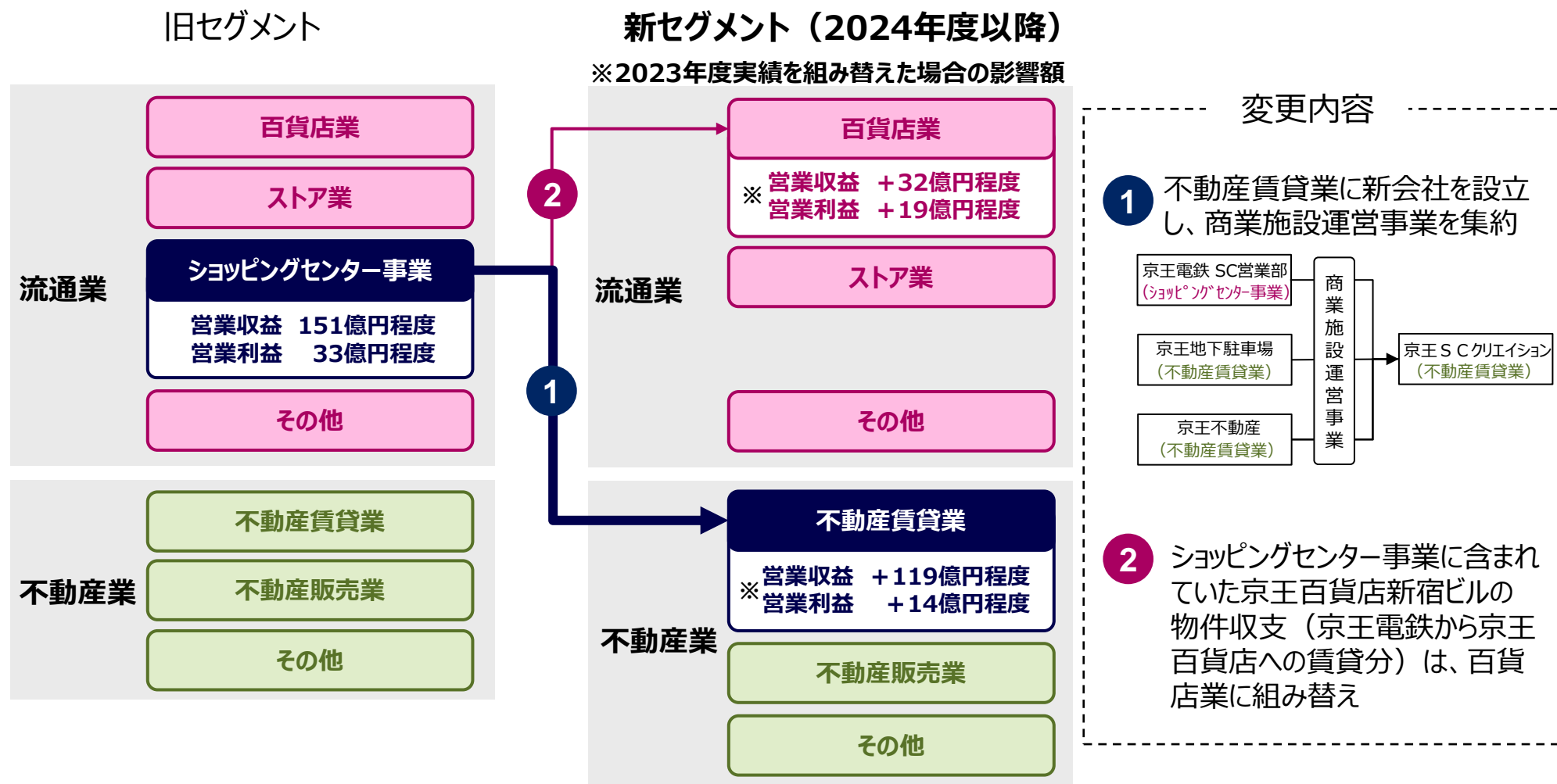
## 7. セグメント情報（その他業）

(単位：億円、%)

	2024年度通期の業績予想				
	2023年度 実績	2024年度 今回予想	前年増減（増減率）	2024年度 当初計画 <small>(2024.5.10公表)</small>	計画差異（差異率）
営業収益	784	841	56（ 7.2）	841	△ 0（ △ 0.0）
（ビル総合管理業）	282	281	△ 0（ △ 0.2）	274	7（ 2.7）
（車両整備業）	93	93	0（ 0.3）	92	1（ 1.2）
（建築・土木業）	334	385	50（ 15.0）	400	△ 14（ △ 3.7）
（その他）	94	104	9（ 9.6）	101	2（ 2.2）
（消去）	△ 20	△ 22	△ 2（ — ）	△ 26	3（ — ）
営業利益	56	56	△ 0（ △ 0.3）	54	1（ 3.6）
（ビル総合管理業）	24	21	△ 3（ △ 14.6）	19	1（ 9.3）
（車両整備業）	9	7	△ 2（ △ 23.4）	8	△ 1（ △ 17.3）
（建築・土木業）	20	23	2（ 11.5）	23	△ 0（ △ 0.5）
E B I T D A	62	62	0（ 0.4）	60	1（ 3.0）
減価償却費	4	4	0（ 0.9）	4	△ 0（ △ 2.2）
資本的支出	37	25	△ 12（ △ 32.4）	25	—（ — ）

# （参考）商業施設運営事業の再編に伴うセグメント区分変更

- 2024年度に新会社（京王S Cクリエイション）を設立し、不動産賃貸業に商業施設運営事業を集約
- 商業施設運営事業の再編に伴いセグメント区分を変更



本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。